

授業科目名 (時間割コード：910355) カリキュラム編成の理論と香川の教育 Theory of the Curriculum Formation and Education of Kagawa	科目区分	水準DPコード 1abxGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 月1	
担当教員名  山岸 知幸, 齋藤 嘉則, 野村 一夫, 松井 保	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	関連授業科目	
	履修推奨科目		
学習時間 講義 (演習ワークなどを含む) 90×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学習指導要領における教育課程の基準、編成・実施についての方針を再確認するとともに、近年の法整備や学校現場の状況を理解し、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について学修する。 香川県の具体的な事例 (小中一貫校、コミュニティースクール、研究開発校等) も取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについても学修する。なお、必要に応じて学校を訪問し、教育課程と教育実践の実際を参観する機会を授業に位置付ける。			
<b>授業の目的</b> 学習指導要領を確実に理解し、近年の法整備や学校現場の状況を踏まえた上で、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラム理論を学ぶ。香川県の小中学校の特色ある学校づくりの具体的な事例を、関係する香川県の教育計画や施策に関わらせながら学び、カリキュラム開発を行う際の実践上のポイントを理解する。特に、学校経営の視点から、教員の意識・資質能力及び組織づくりに焦点を当て、実際に特色のある学校づくりを行う際のポイントについて学修する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について説明できる。 2. 香川県の具体的な事例を理解し参考にしつつ、カリキュラム開発の際の実践上のポイントを説明できる。 3. 学校経営の視点から、教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりの在り方について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎時間のミニレポート (20)、グループワークの活動内容と成果 (40)、最終レポート (40) により、総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：オリエンテーション—本授業の目的とカリキュラム開発をめぐる現状— (担当教員全員) 第2回：学習指導要領における教育課程の基準、編成・実施 (山岸・齋藤) 第3回：カリキュラム改革の歴史とカリキュラム編成理論 (山岸・齋藤) 第4回：特色ある学校づくりとカリキュラム理論 (山岸・齋藤) 第5回：カリキュラム理論についての検討 (担当教員全員) 第6回：香川県の特色ある小学校のカリキュラム (1) —教育計画・学校経営・地域連携— (野村・山岸) 第7回：香川県の特色ある小学校のカリキュラム (2) —小学校の具体的な事例— (野村・山岸) 第8回：小学校カリキュラムの検討・分析 (担当教員全員) 第9回：小学校カリキュラムの課題 (担当教員全員) 第10回：香川県の特色ある中学校のカリキュラム (1) —教育計画・学校経営・地域連携— (松井・山岸) 第11回：香川県の特色ある中学校のカリキュラム (2) —中学校の具体的な事例— (松井・山岸) 第12回：中学校カリキュラムの検討・分析 (担当教員全員) 第13回：中学校カリキュラムの課題 (担当教員全員) 第14回：特色あるカリキュラム編成に向けて (担当教員全員) 第15回：まとめ (担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しない。 毎時、授業資料を配付する。 参考書は随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜昼休み、木曜4校時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> カリキュラムの改革は、教育改革の中でも、最重要問題とされているものです。主体的・積極的に授業に参加し、カリキュラム理論や香川県の現状をしっかりと学び、将来、特色ある学校づくりができるような力量を培ってください。			

授業科目名 (時間割コード：910356) 教材研究・開発とICT活用による授業改善 Lesson Development With ICT	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 月2	
担当教員名  野崎 武司, 齊藤 嘉則, 宮崎 英一, 松下 幸司	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻		
	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 新たな価値創造を担う次世代の日本の若者たちの育成は喫緊の課題である。高等学校教育にアクティブラーニングの普及は必至である。その基盤として、小中学校においても「新しい学び」を企図した授業を広めていかねばならない。基礎基本の習得を基盤に、学年段階に相応しい主体的な学習、グループ学習、協同学習を構想・実践・省察する力は、これからの教員に不可欠な資質能力である。これは、児童生徒の学習意欲を格段に高める方法ともなる。			
<b>授業の目的</b> 「新しい学び」の視点に立った教材開発の考え方と技法（ICT活用を含む）を学び、学校現場の授業改善をリードしていくための資質能力を養うことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①「新しい学び」の基本的考え方を理解し、特定単元の教材を構築することができる。 ②「新しい学び」を配慮した模擬授業を遂行できる。 ③教材開発や授業構想に関わって効果的なグループ活動を組織できる。 ④実際の子どもの反応を的確に想定しながら教材と授業を省察できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：開発教材と解決課題との整合性 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：最終レポート (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション (野崎・齋藤) 第2回 「新しい学び」とディープ・アクティブラーニング：概論 (野崎・齋藤) 第3回 授業のユニバーサルデザイン：概論 (野崎・齋藤) 第4回 授業のユニバーサルデザイン：教材開発演習 (野崎・齋藤) 第5回 授業のユニバーサルデザイン：模擬授業と省察 (野崎・齋藤) 第6回 協同学習と授業デザイン：概論 (齋藤・野崎) 第7回 協同学習と授業デザイン：教材開発演習 (齋藤・野崎) 第8回 協同学習と授業デザイン：模擬授業と省察 (齋藤・野崎) 第9回 「新しい学び」におけるタブレット端末活用法：概論 (宮崎・野崎) 第10回 「新しい学び」におけるタブレット端末活用法：教材開発演習 (宮崎・野崎) 第11回 「新しい学び」におけるタブレット端末活用法：模擬授業と省察 (宮崎・野崎) 第12回 「新しい学び」における電子黒板活用法：概論 (松下・野崎) 第13回 「新しい学び」における電子黒板活用法：教材開発演習 (松下・野崎) 第14回 「新しい学び」における電子黒板活用法：模擬授業と省察 (松下・野崎) 第15回 「新しい学び」の可能性と課題：グループ討議 (野崎・齋藤)			
自学自習へのアドバイス 様々なタイプの典型授業の実践記録を読み込んで、実戦感覚を身に付けよう。アクティブラーニング学習会 (学部生を対象とした模擬授業) に参加しよう。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書、(参) 水越敏行『ICT教育のデザイン』日本文教出版 (参) 松下佳代『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房 (参) 桂聖『国語授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版社 (参) エリザベス・バークレイ他『協同学習の技法』ナカニシヤ出版			
オフィスアワー 野崎 後期月曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。ミニレポートがあります。			

授業科目名 (時間割コード：910357) 指導法分析と学習支援 Analysis of teaching methods and the learning support	科目区分	水準DPコード labxGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 月2	
担当教員名 有馬 道久, 岡田 涼, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科	高度教職実践専攻	
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 指導法と学習支援に関する専門性と実践力の向上を目的として、①子ども理解の理論と方法、②教授法や動機づけに関する理論と方法、③教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法、④教師行動の分析手法、⑤授業研究や研究協議の理論と実践、等について学修する。そのために、講義形式を基本としながらも、テーマに応じてグループ学習や模擬授業を取り入れながら学ぶ。			
授業の目的 子ども理解・動機づけ・教育評価に関する理論と方法、教師行動の分析手法、そして、授業研究や研究協議の理論と実践、等について学修することを通して指導法と学習支援に関する専門性と実践力の向上を図る。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①指導法と学習支援に関する理論と方法の概要を説明できる。 ②特定の指導法あるいは学習支援に関する方法を試行実施し、その効果と課題を説明することができる。 ③学修の成果を元に自らの教育実践課題を設定できる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：グループ討議における立論の整合性 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：最終レポート (20)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション (担当教員全員)			
第2回 子ども理解の理論と方法：学ぶ力の育成 (有馬・岡田)			
第3回 子ども理解の理論と方法：情緒と社会性の発達と教育 (有馬・岡田)			
第4回 子ども理解の理論と方法：学校適応と支援 (有馬・岡田)			
第5回 教授法と動機づけ：理論について (岡田・有馬)			
第6回 教授法と動機づけ：実践事例から (岡田・有馬)			
第7回 教育評価に関する理論と方法：パフォーマンス評価とルーブリック (岡田・有馬)			
第8回 授業評価に関する理論と実践 (岡田・有馬)			
第9回 教師行動の分析手法：反省的教授 (有馬・田崎)			
第10回 教師行動の分析手法：授業中の教師の視線行動と思考 (有馬・田崎)			
第11回 教師行動の分析手法：授業中の教師の視線行動と思考に関する試行実践 (有馬・田崎)			
第12回 授業研究や研究協議の理論 (田崎・有馬・岡田)			
第13回 授業研究や研究協議の実践例 (田崎・有馬)			
第14回 授業研究や研究協議に関する試行実践 (田崎・有馬)			
第15回 まとめ (担当教員全員)			
教科書・参考書等 未定			
オフィスアワー 有馬 木曜日 10時30分～11時30分、研究室：北8号館4F			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回の授業終了時に書いてもらう短いまとめ、考察、質問、それに対する担当教員のコメントを通して知識、理解、思考を深めましょう。			

授業科目名 (時間割コード: 910358) 生徒指導と教育相談の理論と実際 Theory and practice of guidance and counseling, educational counseling	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 火1	
担当教員名  宮前 義和, 七條 正典, 山本 木ノ実	対象年次及び学科	1~	教育学研究科 高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 生徒指導と教育相談に関する理論を学び、実践事例を通じて理解を深める。まず、生徒指導の意義と役割を、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題を通じて学ぶ。次に、子どもの理解を深めることやカウンセリング(教育相談)について学習し、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について知る。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確かなものにする。			
<b>授業の目的</b> 生徒指導と教育相談の意義と役割について、実践事例を通じて、具体的に理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導と教育相談の意義と役割について理解する。</li> <li>アセスメントの意義と活用について理解する。</li> <li>実践事例における見立てと対応について、自らの考えを述べることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポートを課す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>知識・理解：生徒指導と教育相談の意義と役割に関する理解 (30)</li> <li>課題解決力・実践力：実践事例における見立てと対応についての考察 (70)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回：生徒指導の意義と役割 (七條) 第2回：いじめの理解と対応 (七條・山本) 第3回：不登校の理解と対応 (七條・山本) 第4回：非行の理解と対応 (七條) 第5回：命の教育・自殺の防止について (七條) 第6回：学校における生徒指導体制の構築 (七條・山本) 第7回：教育相談の意義と役割 (宮前) 第8回：カウンセリング(教育相談)における受容・共感的理解・純粋性 (宮前) 第9回：カウンセリング(教育相談)における傾聴 (宮前) 第10回：予防的教育相談(成長促進型生徒指導) (宮前・山本) 第11回：アセスメントの意義と活用 (宮前・山本) 第12回：虐待の理解と対応 (宮前・山本) 第13回：実践事例に関する討議 (担当教員全員) 第14回：実践事例に関する討議 (担当教員全員) 第15回：実践事例に関する討議 (担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (教) 文部科学省 (2010). 生徒指導提要			
オフィスアワー 随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践事例における見立てと対応について授業内容を踏まえて考察し、積極的に討議に参加をする。</li> <li>生徒指導と教育相談に関する実践事例に、論文等を通じて触れるようにする。</li> </ul>			

授業科目名 (時間割コード：910359) 道徳教育の実践研究 Practice study on Moral education	科目区分	水準DPコード 1 a b ×GL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 水1	
担当教員名  植田 和也, 七條 正典, 齊藤 嘉則	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	道徳教育と学校経営実践研究	
	履修推奨科目	道徳授業の実践研究	
学習時間	講義90分×15回＋自学自習		
<b>授業の概要</b> 道徳教育の改革や社会のモラル低下等の背景を踏まえて、道徳教育における諸課題を明らかにするとともに、「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の改訂を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解する。 さらに、学習指導要領の変遷を押さえるとともに、香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、単時間構想、繰り返し主題構想、大主題構想等の実践事例をもとに学ぶ。それらを通して、各学校の道徳教育充実のための実践的課題をテーマとして取り上げながら、課題解決のヒントや構想プランを試みる。			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は主に3つである。 ・「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の改訂を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解することができる。その際に、道徳・道徳教育とは何かについて私たち自身の問題として捉えることができる。 ・現在までの学習指導要領の変遷を押さえるとともに、香川県における道徳教育に関する実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、単時間構想、繰り返し主題構想、大主題構想等の実践事例をもとに学びながら、全国の多様な事例と比較して理解することができる。 ・各学校における道徳教育の課題を明らかにするとともに、学校における道徳教育の推進体制や計画の実践における実践的な課題解決のヒントや構想プランを試みるができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<b>到達目標</b> ・道徳教育に関する諸課題や道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について説明することができる。 ・学習指導要領の大まかな変遷を捉えるとともに、香川県における道徳教育の特色等について説明することができる。 ・道徳教育の編成や学校における推進体制や計画の実践における実践的な課題解決のヒントや構想プランを各グループで話し合うとともに具体的なビジョンを立てることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・学習指導要領において示されている道徳教育に関する基本的事項を理解できる。(30) ・現代の主要な道徳教育論に関する理論と実践例等を適切に理解できる。(30) ・道徳教育に関する諸課題を理解するとともに、その解決の具体的なヒントやプラン構想をグループで立てることができる。(40) 以上の諸基準に基づき、以下の諸点を資料として総合的に評価する。 ・授業への出席状況、課題への取り組み、グループ等における発表や討論への参加状況 ・授業において作成する予定の課題解決のヒントや構想プラン ・授業において課すレポート等			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 道徳教育の改革や社会のモラル低下等の背景を踏まえて、「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の改訂を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解する。 さらに、学習指導要領の変遷を押さえるとともに、香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、単時間構想、繰り返し主題構想、大主題構想等の実践事例をもとに学ぶ。適宜、グループでの演習等を取り入れて参加型形式での学びの場を設定する。例えば、道徳教育に関する諸課題に関して、その解決の具体的なヒントやプラン構想をグループで立てる場を設ける。  第1回 オリエンテーション、子どもが生きる社会のモラルとマナーの低下に関して、各種データや県教委が掲げる教育課題等と関連させながら解説し、グループ討議を取り入れて背景について検討する。(担当教員全員) 第2回 学校教育目標と道徳教育目標の関連について、事例を示しながら、その実際と諸課題について解説する。(担当教員全員) 第3回 全国的な流れと香川の特色、道徳教育に関する文部科学省や県教委の施策等についてもその概要についてふれることとする。(担当教員全員) 第4回 グループ等で事前に調べてきた教育計画と比較しながら、その課題の背景等を整理する。(植田・七條)			

- 第5回 道徳教育の動向と課題について、過去の答申や学習指導要領改訂の動きを踏まえたうえで具体的に解説する。(七條・齋藤)
- 第6回 現在の「特別の教科 道徳」に関する学習指導要領の内容と平成元年版、平成10年版や平成20年版の内容と比較しながら基本的な考え方を理解する。(担当教員全員)
- 第7回 道徳教育の意義と役割、道徳教育と道徳の時間について、全体計画や年間指導計画を比較しながら、その意義や活用等について解説する。(七條・植田)
- 第8回 各グループで今までの講義を踏まえて、道徳教育の変遷のポイントや各学習指導要領の特色を表などに整理して討論する。(担当教員全員)
- 第9回 全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介する。(植田・七條)
- 第10回 全体計画や年間指導計画の課題や事例に関して、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。(担当教員全員)
- 第11回 香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、特に、単時間構想、繰り返し主題構想の実践事例をもとに学ぶ。(植田・七條)
- 第12回 香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、特に、大主題構想等の実践事例をもとに学ぶ。(七條・植田)
- 第13回 学校教育全体で取り組む道徳教育推進のためのポイントや実践事例を基に課題や計画等の改善について解説する。また、各グループで道徳推進教師や各教員ができることを具体的に考える。(植田・七條)
- 第14回 学校における道徳教育の推進体制や計画の実践における実践的な課題解決のヒントや構想プランを立て、グループごとに発表する。(担当教員全員)
- 第15回 まとめ 院生が中心となり、教員も加わった「道徳教育向上シンポジウム」を企画し実施する。他の院生や学部生等にも公開して行う。(担当教員全員)

#### 教科書・参考書等

- (教) 小学校学習指導要領解説 道徳編 (127円)、中学校学習指導要領解説 道徳編 (139円)  
現代の主要な道徳教育論に関する諸著作、各学校や地域における道徳教育研究成果の研究物等 その他の教材等は授業において紹介する。
- (参) 未来への扉を拓く道徳教育 七條正典他編 美巧社(1620円)  
子どもが自ら学ぶ道徳教育 香川県小学校道徳教育研究会 東洋館出版社 (2200円)  
総合的学習と連携を図る道徳学習 香川県小学校道徳教育研究会 明治図書 (2376円)

オフィスアワー 植田：昼休み並びに月曜日から水曜日の5コマ  
事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。k-ueta@ed.kagawa-u.ac.jp  
七條：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。shichijo@ed.kagawa-u.ac.jp  
齋藤：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自学自習へのアドバイス：事前に調べてくる課題を出すので、グループ等で積極的に事例を集め、グループで話し合いに進んで参加しよう。課題を中心に整理する表や図を描いてみよう。

授業科目名 (時間割コード：910360) 自律的学校経営と学校組織 Autonomous School Management and School Organization	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
担当教員名 柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	単位数 2	時間割 前期 火2	
学習時間 演習90分×15回+自学自習	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
授業の概要 自律的学校経営の観点から組織マネジメントを探究するとともに、組織マネジメントを支える教員の専門性、組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方を探究する。	関連授業科目		
授業の目的 自律的学校経営の意義と必要性を理解するとともに、学校組織の特性、組織マネジメントの考え方と組織マネジメントの実践、組織マネジメントを支えるために求められる教員の専門性、組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について、事例に即して理解を深めることを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標		学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)	
①自律的学校経営の意義と必要性について具体的な事例をもとに説明することができる。 ②小学校あるいは中学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに説明することができる。 ③組織マネジメントの考え方と組織マネジメントの実践について具体的な事例をもとに説明することができる。 ④小学校あるいは中学校での組織マネジメントを支えるために求められる教員の専門性について具体的な事例をもとに説明することができる。 ⑤組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について具体的な事例をもとに説明することができる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：各時間のターミナル・レポート (20) 課題解決力：各時間および全体討議での事例にもとづいた説明 (30) 社会的行動力：全体討議での実践課題の説明 (20) 総合的思考力：ファイナル・レポート (30)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 授業の目的および方法：問題意識の確認 (担当教員全員) 第2回 自律的学校経営の意義と必要性Ⅰ：1980～1990年代 (担当教員全員) 第3回 自律的学校経営の意義と必要性Ⅱ：2000年代～現在 (担当教員全員) 第4回 組織マネジメントの考え方Ⅰ：小学校の場合 (柳澤・野村) 第5回 組織マネジメントの考え方Ⅱ：中学校の場合 (柳澤・松井) 第6回 自律的学校経営をめぐる実践課題：全体討議 (担当教員全員) 第7回 小学校における学校組織の特性Ⅰ：校務分掌 (柳澤・野村) 第8回 小学校における学校組織の特性Ⅱ：協働体制 (柳澤・野村) 第9回 小学校における組織マネジメントの実践と教員の専門性Ⅰ：教科指導 (柳澤・野村) 第10回 小学校における組織マネジメントの実践と教員の専門性Ⅱ：生活指導 (柳澤・野村) 第11回 中学校における学校組織の特性Ⅰ：校務分掌 (柳澤・松井) 第12回 中学校における学校組織の特性Ⅱ：協働体制 (柳澤・松井) 第13回 中学校における組織マネジメントの実践と教員の専門性Ⅰ：教科指導 (柳澤・松井) 第14回 中学校における組織マネジメントの実践と教員の専門性Ⅱ：生活指導 (柳澤・松井) 第15回 組織マネジメントにおける協働の実践課題：全体討議 (担当教員全員)			
自学自習へのアドバイス 学部卒学生においては、各種文献や現職教員へのインタビューをとおして事例を収集しておくことが求められる。現職教員学生においては、勤務校での学校経営の取り組み事例を参考にしながら、事例を提示する準備をしておくこと。			
教科書・参考書等 (教) 浜田博文編著 (2014)『教育の経営・制度』一藝社 (参) 佐古秀一・曾余田浩史・武井敦史 (2011)『学校づくりの組織論』学文社 (参) 中留武昭 (2010)『自律的な学校経営の形成と展開 第1巻～第3巻』教育開発研究所 (参) 浜田博文編著 (2012)『学校を変える新しい力』小学館			
オフィスアワー 金曜日5時限目 (8号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講生は、事例に関する質疑応答をはじめ、議論に対して積極的に参加することが求められる。			

授業科目名 (時間割コード: 910361) 学級経営実践研究 Studies on the Practice of Class Management	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 水2	
担当教員名  七條 正典, 毛利 猛, 植田 和也	対象年次及び学科	1~	教育学研究科 高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分×15回+自学自習		
授業の概要 学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の成長発達を視野に入れた準拠集団の形成過程について理解する。また、学級経営の在り方について実践事例を基に検証するとともに、その評価についても検討する。さらに、学級における危機管理の在り方を実践的な視点から考察する。			
授業の目的 教育における学級経営の意義を理解し、個と集団の成長発達を踏まえた学級経営の在り方について、実践事例を基に考察することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営の目的と方法の理解を基に、実践事例を分析し、学級経営の在り方について考察することができる。</li> <li>準拠集団の形成過程の理解を基に、よりよい学級づくりに向けた実践プログラムを作成することができる。</li> <li>実践事例の検証を基に、学級における危機管理についての具体的方策をもつことができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>協働して、実践事例を分析し、学級経営の在り方についての認識を深めることができたか。(40)</li> <li>準拠集団の理解に基づき、よりよい学級づくりに向けた実践プログラムを作成することができたか。(40)</li> <li>学級における危機管理の視点を持ち、具体的方策を考えることができたか。(20)</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回: 学級経営の意義や目的について、講義を基に理解を深める (毛利・植田) 第2回: 学級経営の意義や目的について、事例や文献等を基に理解を深める (毛利・植田) 第3回: 学級経営の内容について、講義を基に理解を深める 1 (毛利・植田) 第4回: 学級経営の指導方法について、講義を基に理解を深める 2 (毛利・植田) 第5回: 学級集団の理解と個の成長発達を踏まえた準拠集団の形成過程の理解を、講義を基に深める (七條・植田) 第6回: 学級集団の理解と個の成長発達を踏まえた準拠集団の在り方について、事例を基に検討する (七條・植田) 第7回: 学級経営の評価の在り方について、講義を基に理解を深める (七條・植田) 第8回: 学級経営の評価について事例を基に協議し、その視点を獲得する (七條・植田) 第9回: 実践事例(小学校)を基に協議・検討し、よりよい学級経営の在り方について理解を深める (担当教員全員) 第10回: 実践事例(中学校)を基に協議・検討し、よりよい学級経営の在り方について理解を深める (担当教員全員) 第11回: よりよい学級づくりに向けた実践プログラムを作成する (各自の課題や作成方法の理解) (担当教員全員) 第12回: よりよい学級づくりに向けた実践プログラムを作成する (プログラムの作成と発表) (担当教員全員) 第13回: 実践事例を基に協議し、学級の危機管理について、講義を基に理解を深める (植田・七條) 第14回: 実践事例を基に協議し、学級の危機管理についての理解を踏まえ、具体的方策を検討する (植田・七條) 第15回: 実践事例を基に協議し、学級の危機管理についての具体的方策をまとめる (植田・七條)			
教科書・参考書等 (参)香川県教育センター・香川大学教育学部(2014)「達人が伝授!」。その他、随時紹介する。			
オフィスアワー 火曜日 5 講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 学級経営に関するこれまでの自らの実践を整理した上で、参加することが望まれる。			



授業科目名 (時間割コード：910362) 開かれた学校づくりと校内支援体制 Participative School System and Support Organization in Schools	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 水1	
担当教員名  柳澤 良明, 宮前 義和, 齊藤 嘉則	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学校評議員制度、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）、学校支援ボランティアの観点から開かれた学校づくりを探究するとともに、開かれた学校づくりを支える校内支援体制を探究する。			
<b>授業の目的</b> 開かれた学校づくりが求められる背景および理由を理解し、学校が取り組むべき課題を日本の学校教育の歴史的展開をもとに理解した上で、学校評議員制度および学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のしくみ、これらの取り組みおよびその実践課題、学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題、開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりおよびその実践課題について理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①開かれた学校づくりが求められる背景および理由について説明することができる。 ②学校が取り組むべき課題について日本の学校教育の歴史的展開をもとに説明することができる。 ③学校評議員制度および学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のしくみとともに、これらの取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明することができる。 ④学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明することができる。 ⑤開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 知識・理解：各時間のターミナル・レポート (20) 課題解決力：各時間および全体討議での事例にもとづいた説明 (30) 社会的行動力：全体討議での実践課題の説明 (20) 総合的思考力：ファイナル・レポート (30)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回 授業の目的および方法：問題意識の確認（担当教員全員） 第2回 日本の学校教育の歴史的展開と開かれた学校づくりⅠ：1980～1990年代（柳澤・齋藤） 第3回 日本の学校教育の歴史的展開と開かれた学校づくりⅡ：2000年代～現在（柳澤・齋藤） 第4回 学校評議員制度と学校運営協議会制度のしくみⅠ：学校評議員制度（柳澤・齋藤） 第5回 学校評議員制度と学校運営協議会制度のしくみⅡ：学校運営協議会制度（柳澤・齋藤） 第6回 学校支援ボランティアの取り組みと開かれた学校づくりⅠ：小学校の場合（柳澤・齋藤） 第7回 学校支援ボランティアの取り組みと開かれた学校づくりⅡ：中学校の場合（柳澤・齋藤） 第8回 学校支援ボランティアの取り組みの実践課題：全体討議（担当教員全員） 第9回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりⅠ：協働の基本原則（宮前・齋藤） 第10回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりⅡ：小学校の場合（宮前・齋藤） 第11回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりⅢ：中学校の場合（宮前・齋藤） 第12回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりの実践Ⅰ：協働の実践原則（宮前・齋藤） 第13回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりの実践Ⅱ：小学校の場合（宮前・齋藤） 第14回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりの実践Ⅲ：中学校の場合（宮前・齋藤） 第15回 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりの実践課題：全体討議（担当教員 全員）  自学自習へのアドバイス 学部卒学生においては、各種文献や現職教員へのインタビューをとおして事例を収集しておくことが求められる。現職教員学生においては、勤務校での学校経営の取り組み事例を参考にしながら、事例を提示する準備をしておくこと。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 浦野東洋一・勝野正章・中田康彦編著 (2007)『開かれた学校づくりと学校評価』学事出版 (参) 佐々木正治・山崎清男・北神正行編著 (2009)『新 教育経営・制度論』福村出版 (参) 佐藤春雄編著 (2010)『コミュニティ・スクールの研究』風間書房 (参) 柳澤良明編 (2010)『学校変革12のセオリー』学事出版			
オフィスアワー 金曜日5時限目 (8号館4階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 受講生は、事例に関する質疑応答をはじめ、議論に対して積極的に参加することが求められる。			

授業科目名 (時間割コード：910363) 学校教育の役割と教員のライフステージ The role of school education and teacher career development	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 火1	
担当教員名  有馬 道久, 野崎 武司, 野村 一夫, 松井 保	対象年次及び学科	1～	教育学研究科 高度教職実践専攻
	関連授業科目		
履修推奨科目			
学習時間 講義・演習90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 学校教育と教員のあり方について、①香川県の学校教育の役割と課題、②学力観の変遷と教師のあり方、③児童生徒の自尊感情の育成、④教員としてのライフステージの形成、等について学修する。そのために、講義形式を基本としながらも、テーマに応じてグループ学習や模擬授業を取り入れながら学ぶ。			
授業の目的 現代的な教育課題の理解を深め、これからの学校の役割を新たに捉え直し、それぞれのライフステージに沿った教職の使命について検討を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①学校教育の現代的課題に関して認識を深めることができる。 ②学校の現代的課題を踏まえて、これからの学校の役割を多面的に論じることができる。 ③様々なライフステージに合わせた教職の使命について立論できる。 ④これまでの自己のあり方を振り返り、これからの自己のあり方を設計することができる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：グループ討議における立論の整合性 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：最終レポート (20)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション(担当教員全員) 第2回 香川県の学校教育の役割と課題：子どもから学ぶ (野村・有馬) 第3回 香川県の学校教育の役割と課題：同僚と共に実践する (野村・有馬) 第4回 香川県の学校教育の役割と課題：家庭・地域と共に支える (野村・有馬) 第5回 児童生徒の自尊感情の育成：現状と課題 (有馬・野崎) 第6回 児童生徒の自尊感情の育成：小学校の取組 (有馬・野村) 第7回 児童生徒の自尊感情の育成：中学校の取組 (有馬・松井) 第8回 学力観の変遷と教師のあり方：現状と課題 (野崎・有馬) 第9回 学力観の変遷と教師のあり方：学力と学ぶ力 (野崎・有馬) 第10回 学力観の変遷と教師のあり方：教師の力量 (野崎・有馬) 第11回 教員としてのライフステージの形成：教職の使命を再考する (松井・有馬) 第12回 教員としてのライフステージの形成：学び続ける教員 (松井・有馬) 第13回 教員としてのライフステージの形成：自己のあり方を振り返る (松井・有馬) 第14回 教員としてのライフステージの形成：これからの自己のあり方を設計する (松井・有馬) 第15回 総合討議：これからの教職のあり方 (担当教員全員)			
教科書・参考書等 (参) 山崎準二編『教職エッセンシャル 学び続ける教師をめざす実践演習』学文社			
オフィスアワー 有馬 木曜日 10時30分～11時30分、研究室：北8号館4F			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回の授業終了時に書いてもらう短いまとめ、考察、質問、それに対する担当教員のコメントを通して知識、理解、思考を深めましょう。			

授業科目名 (時間割コード: 910364) 発達支援を視点とした教育と医療 Education and Medicine in Human Development	科目区分	水準DPコード 1acbGL	分野コード
担当教員名 恵羅 修吉, 山本 木ノ実, 西田 智子	単位数 2	時間割 後期 月1	
	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目	発達と学力のアセスメント	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 発達支援の視点について学び、発達支援に基づく教育と医療のあり方について理解を深める。人間発達の普遍性と個別性を理解することを基盤に置きながら、発達障害の特徴について理解する。メインテーマは、人間発達を踏まえたうえで、特別支援教育の来るべきシステムについて考えることである。サブテーマとして、特別な教育的ニーズのある子どもに対する支援方法、発達障害に対する医療の役割、特別支援教育における教育と医療の連携について学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 子どもの発達と発達障害について、医療、心理、教育の幅広い視点から学び、発達支援に基づく教育と医療のあり方について理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>発達支援の考え方を学び、理解を深める。</li> <li>発達障害に関する医療について基礎的知識を獲得する。</li> <li>特別支援教育の制度に関する理解を深める。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当ごとに課題レポートを課す。</li> <li>最終回のグループ協議での発表内容を評価する。</li> <li>発達支援(20)、医療(30)、特別支援教育(30)、グループ協議等(20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回: 導入: これからの教育と医療について考える (山本木ノ実・恵羅修吉) 第2回: 発達支援: 概論 (恵羅修吉・山本木ノ実) 第3回: 発達支援: 発達の普遍性と個別性 (恵羅修吉・山本木ノ実) 第4回: 発達支援: 新しい学習科学 (恵羅修吉・山本木ノ実) 第5回: 発達障害と医療: 発達障害の生物学的背景 (西田智子) 第6回: 発達障害と医療: 知的障害 (西田智子) 第7回: 発達障害と医療: 自閉症スペクトラム障害 (西田智子) 第8回: 発達障害と医療: 注意欠陥/多動性障害 (西田智子) 第9回: 発達障害と医療: 学習障害 (西田智子) 第10回: 特別支援教育における発達障害の理解 (山本木ノ実・恵羅修吉) 第11回: 特別支援教育の歴史: (山本木ノ実・恵羅修吉) 第12回: 特別支援教育のシステム (山本木ノ実・恵羅修吉) 第13回: 特別支援教育における校内支援体制 (山本木ノ実・恵羅修吉) 第14回: 通常の学級における特別支援教育 (山本木ノ実・恵羅修吉) 第15回: まとめ: これからの教育と医療について考える (山本木ノ実・恵羅修吉)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 竹田契一・上野一彦・花熊暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」金剛出版 (参) 武蔵博文・恵羅修吉監修「エッセンシャル 特別支援教育コーディネーター」大学教育出版			
<b>オフィスアワー</b> 授業の全体的なことについては月曜日 5 講目に恵羅が担当します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 発達と発達障害について、医療、心理、教育から幅広く考えることが重要である。			

授業科目名 (時間割コード: 910365) 教科学習でのつまずき・困難への指導 Instruction to the Difficulties in the Subject Learning	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 集中	
担当教員名  武蔵 博文, 山本 木ノ実, 佐藤 明宏, 長谷 川 順一, 米村 耕平	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻		
	関連授業科目		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 発達障害児が示す学習の困難とそれに対する指導法について理解する。音声言語学の基礎から、言語・コミュニケーションの発達とその困難、支援の観点と方法について理解する。国語科教育学の視点より、日本語の文字体系に関する理解を基盤として、読み書き困難と原因に応じた指導方法について理解する。数学科教育学の視点より、基本的数処理・数概念のつまずき、四則演算や筆算、文章題の指導などに関して理解する。保健体育科教育学の視点より、感覚運動機能、姿勢やバランスの保持、協調運動や運動企画の困難とそれらの指導に関して理解する。			
<b>授業の目的</b> 言語コミュニケーション、読み書き能力、算数(数学)能力、発達性協調運動障害を中核とする感覚・運動機能の問題について展望し、教科教育的な視点から指導のあり方について理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児が示す学習の困難について理解する。</li> <li>・読み書き障害のある子どもに対する指導方法を理解する。</li> <li>・算数障害のある子どもに対する指導方法を理解する。</li> <li>・発達性協調運動障害のある子どもに対する指導方法を理解する。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 担当ごとに課題のレポートを課す。子どもの示す特性や状態を捉えて、アセスメントの結果をまとめ、指導を実施するための個別指導を計画できるようになること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語・コミュニケーションの発達と指導 (30)、読み書きのつまずきと指導 (30)、数・量概念、数学的思考のつまずきと指導 (20)、協調運動・バランス機能のつまずきと指導 (20)。</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回: 教科学習で生じる学習・行動面のつまずきと個に応じた指導 (担当: 武蔵博文) 第2回: 言語・コミュニケーションの発達とその困難 (担当: 武蔵博文) 第3回: 話す・聞く のアセスメント (担当: 武蔵博文・山本木ノ実) 第4回: つまずきの特性に応じた指導プログラム (担当: 武蔵博文・山本木ノ実) 第5回: 指導プログラムの例と作成 (担当: 武蔵博文・山本木ノ実) 第6回: 読み書き領域を中心とした国語科教育法 (担当: 佐藤明宏) 第7回: 読み書きのアセスメント (担当: 佐藤明宏) 第8回: つまずきの特性に応じた指導プログラム (担当: 佐藤明宏・山本木ノ実) 第9回: 指導プログラムの例と作成 (担当: 佐藤明宏・山本木ノ実) 第10回: 数・量概念の理解や数学的思考にかかわる数学科教育法 (担当: 長谷川順一) 第11回: 数・量概念のアセスメント (担当: 長谷川順一) 第12回: つまずきの特性に応じた指導プログラム (担当: 長谷川順一・山本木ノ実) 第13回: 協調運動やバランス機能などにかかわる体育科教育法 (担当: 米村耕平) 第14回: 協調運動やバランス機能などのアセスメント (担当: 米村耕平) 第15回: つまずきの特性に応じた指導プログラム (担当: 米村耕平・山本木ノ実)			
<b>教科書・参考書等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田契一・上野一彦・花隈暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 II 指導」金剛出版</li> <li>・武蔵博文・恵羅修吉監修「エッセンシャル 特別支援教育コーディネーター」大学教育出版</li> </ul>			
<b>オフィスアワー</b> 随時。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 「話す・聞く」「読む・書く」「計算・推論」「からだ・動き」は、子どもが生活や学習を進める上での基本である。基本的な生活・学習能力の評価と指導が、これからの特別支援教育に求められる。			

授業科目名 (時間割コード：910366) 発達と学力のアセスメント Assessment on Development and Achievement	科目区分	水準DPコード acxGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 火3	
担当教員名  惠羅 修吉, 山本 木ノ実	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	心理検査の理論と実際	
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分×15回＋自学自習		
<b>授業の概要</b> 通常の学級における特別支援教育のためのアセスメントの意義と目的について理解することを目的とする。子どもの実態および状態把握の方法として、面接、行動観察、質問紙法、心理検査の各方法について理解する。特に、発達障害における認知特性の評価について理解するとともに、基本的な学習能力と学力のつまずきに関する評価に焦点を当てる。通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズがある児童生徒への包括的な支援に必要な総合的解釈について学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 子どものつまずきを理解し、個別の指導計画を作成する上で、適切なアセスメントは不可欠である。本授業では、発達と学力に関するアセスメントの概要を把握した上で、アセスメントから指導への導入について包括的に理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントの意義と目的、各種アセスメントについて説明できる。</li> <li>・アセスメントと指導の関係について理解を深める。</li> <li>・複数のアセスメント結果を総合的に解釈する方法を理解する。</li> <li>・アセスメントを基に個別の指導計画を立案することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントに関する内容の課題レポートを複数提出する。</li> <li>・アセスメントに基づく指導計画作成のシミュレーションを課題とする。</li> <li>・小レポート(80%)、グループワーク(20%)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回：総論：アセスメントの意義 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第2回：アセスメントの歴史 (惠羅・山本) 第3回：発達アセスメント：発達課題、生育歴 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第4回：発達アセスメント：観察と評価 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第5回：学力アセスメント：意義と目的 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第6回：学力アセスメント：読み書きの評価 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第7回：学力アセスメント：算数等の評価 (惠羅修吉・山本木ノ実) 第8回：学校におけるアセスメント：意義と目的 (山本木ノ実・惠羅修吉) 第9回：学校におけるアセスメント：連携 (山本木ノ実・惠羅修吉) 第10回：学校におけるアセスメント：指導との関連 (山本木ノ実・惠羅修吉) 第11回：アセスメントと個別の指導計画 (山本木ノ実・惠羅修吉) 第12回：アセスメント結果の伝達 (山本木ノ実・惠羅修吉) 第13回：アセスメントに関わるグループワーク1：各自の結果の発表・交流 (担当：惠羅修吉、山本木ノ実) 第14回：アセスメントに関わるグループワーク2：各自の結果の発表・交流 (担当：惠羅修吉、山本木ノ実) 第15回：アセスメントに関わるグループワーク3：各自の結果の発表・交流 (担当：惠羅修吉、山本木ノ実)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 竹田契一・上野一彦・花熊暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」金剛出版 (参) 武蔵博文・惠羅修吉監修「エッセンシャル 特別支援教育コーディネーター」大学教育出版			
オフィスアワー 随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 特別な教育的ニーズのある子への指導支援には適切なアセスメントが必須である。			

授業科目名 (時間割コード: 910367) 学級経営・学年団経営の組織論 Organization Theory of Class and Grade Group Management	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 火5	
担当教員名  七條 正典, 毛利 猛, 植田 和也	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学校教育目標の具現化を目指した学級経営・学年団経営の組織的な在り方について具体事例を基に検証し、学校教育目標の達成につながる学級経営・学級経営案を協働で作成する。いくつかの教育課題を取り上げ、その解決につながる学級経営・学年団経営の実践事例についてグループで検証し、自らの課題の達成につながる学級経営・学年団経営案を構想する。また、評価検証の在り方についての理解を深める。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。			
<b>授業の目的</b> 学校教育目標の具現化を目指した学級経営・学年団経営の組織的な在り方について具体事例を基に考察し、課題解決につながる学級経営・学年団経営案を構想し、グループ毎に検証し、評価の視点についても検討する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標の具現化と学級経営・学年団経営とのつながりについて組織的視点からその意義を理解することができる。</li> <li>学校教育目標の具現化を目指した学級経営・学年団経営の組織的な在り方について考察することができる。</li> <li>課題解決につながる学級経営・学年団経営案を構想し、グループ毎に評価検証することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標の具現化と学級経営・学年団経営とのつながりの意義について理解することができたか。(20)</li> <li>学校教育目標の具現化に向け学級経営・学年団経営の組織的な在り方を考察し、まとめることができたか。(40)</li> <li>課題解決につながる効果的な学級経営・学年団経営案を構想することができたか。(40)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回: 学校教育目標の具現化に向けた組織的な学級経営・学年団経営の意義について理解を深める(七條・植田) 第2回: 学校教育目標の具現化に向けた組織的な学級経営・学年団経営の在り方について検討する(七條・植田) 第3回: 今日的教育課題の解決につながる学級経営・学年団経営の意義について理解を深める(毛利・植田) 第4回: 今日的教育課題の解決につながる学級経営・学年団経営の在り方について検討する(毛利・植田) 第5回: 自らの研究課題と組織的な学級経営・学年団経営との関連について検討する(植田・七條) 第6回: 自らの研究課題の解決に向けた組織的な学級経営・学年団経営の具体化の方向を話し合う(植田・七條) 第7回: 学校教育目標の具現化に向けた組織的な学級経営・学年団経営の実践事例を検証する1(担当教員全員) 第8回: 学校教育目標の具現化に向けた組織的な学級経営・学年団経営の実践事例を検証する2(担当教員全員) 第9回: 今日的教育課題の解決に向けた組織的な学級経営・学年団経営の実践事例を検証する1(担当教員全員) 第10回: 今日的教育課題の解決に向けた組織的な学級経営・学年団経営の実践事例を検証する2(担当教員全員) 第11回: 自己課題の解決に向けた組織的な学級経営・学年団経営案を構想する(担当教員全員) 第12回: 自己課題の解決に向けた組織的な学級経営・学年団経営案の構想発表の準備をする(担当教員全員) 第13回: 各自の学級経営・学年団経営案をグループで交流し検討する(担当教員全員) 第14回: 各自の学級経営・学年団経営案を修正し、実践化に向けた課題について話し合う(担当教員全員) 第15回: 自己課題と組織的な学級経営・学年団経営についてのまとめをする(担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 八並光俊他(2008)「生徒指導ガイド」図書文化社、文部科学省(2010)「生徒指導提要」			
オフィスアワー 火曜日2講目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 学校教育目標や今日的教育課題についての理解と、自らの研究課題についての整理をした上で参加すること。			

授業科目名 (時間割コード：910368) 校内研修と力量形成 Teacher Training in Schools and Human Resource Devepolment	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 月4	
担当教員名  柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻		
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方を探究するとともに、こうした場での教員の力量形成を探究する。			
授業の目的 日本の教員研修のしくみと特質について理解した上で、学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方、個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修の在り方を理解するとともに、小学校教員および中学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方、力量形成を理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①日本の教員研修のしくみと特質について具体的な事例をもとに説明することができる。 ②学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに説明することができる。 ③個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに説明することができる。 ④小学校教員および中学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例をもとに説明することができる。 ⑤小学校教員および中学校教員の力量形成について具体的な事例をもとに説明することができる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：各時間のターミナル・レポート (20) 課題解決力：各時間および全体討議での事例にもとづいた説明 (30) 社会的行動力：全体討議での実践課題の説明 (20) 総合的思考力：ファイナル・レポート (30)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 授業の目的および方法：問題意識の確認 (担当教員全員) 第2回 教員研修のしくみと特質Ⅰ：校内研修 (担当教員全員) 第3回 教員研修のしくみと特質Ⅱ：授業研究 (担当教員全員) 第4回 学校ビジョンの実現と校内研修 (担当教員全員) 第5回 学校ビジョンの実現と授業研究 (担当教員全員) 第6回 学校ビジョンの実現と校内研修の実践課題：全体討議 (担当教員全員) 第7回 小学校における校内研修Ⅰ：研修課題 (柳澤・野村) 第8回 小学校における校内研修Ⅱ：体制づくり (柳澤・野村) 第9回 小学校における授業研究Ⅰ：研修課題 (柳澤・野村) 第10回 小学校における授業研究Ⅱ：体制づくり (柳澤・野村) 第11回 中学校における校内研修Ⅰ：研修課題 (柳澤・松井) 第12回 中学校における校内研修Ⅱ：体制づくり (柳澤・松井) 第13回 中学校における授業研究Ⅰ：研修課題 (柳澤・松井) 第14回 中学校における授業研究Ⅱ：体制づくり (柳澤・松井) 第15回 校内研修および授業研究の実践課題：全体討議 (担当教員全員)			
自学自習へのアドバイス 勤務校での学校経営の取り組み事例を参考にしながら、事例を提示する準備をしておくこと。			
教科書・参考書等 (参) 秋田喜代美・キャサリン・ルイス (2008) 『授業の研究 教師の学習』 明石書店 (参) 北神正行・木原俊行・佐野享子 (2010) 『学校改善と校内研修の設計』 学文社 (参) 福岡県教育センター編 (2013) 『校内研修のすすめ方』 ぎょうせい			
オフィスアワー 金曜日5時限目 (8号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講生は、事例に関する質疑応答をはじめ、議論に対して積極的に参加することが求められる。			

授業科目名 (時間割コード: 910369) 道徳教育と学校経営実践研究 Practice on Moral education and school management	科目区分	水準DPコード 1ab×GL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 月3	
担当教員名  植田 和也, 七條 正典, 松井 保, 櫻井 佳樹	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	道徳教育の実践研究	
	履修推奨科目	道徳授業の実践研究	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力や推進体制の重要性について理解する。また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習(空海、平賀源内等)を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。それらを通して、各学校の道徳教育充実のための実践的課題をテーマとして取り上げながら、課題解決のヒントや構想プランを試みる。			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は主に3つである。 ・道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力や推進体制の重要性について理解することができる。 ・教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、具体的な道徳教育推進プラン作成を通してその意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解することができる。 ・地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習(空海、平賀源内等)を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解するとともに自分なりのビジョンを構想する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・道徳教育推進のためのマネジメント能力や推進体制の重要性について理解して、具体的な構想プランを描くことができる。 ・地域の特色を生かした道徳教育の取り組みについて、香川の先人やふるさと学習等を取り入れた自分なりのビジョンを実際に構想して、プレゼンテーションすることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・道徳教育推進のためのマネジメント能力や推進体制の重要性について理解できる。(30) ・課題解決のための具体的な構想プランやビジョンを描くことができる。(30) ・グループで協働して、構想プランやビジョンをプレゼンテーションを通して具体的に説明できる。(40) 以上の諸基準に基づき、以下の諸点を資料として総合的に評価する。 ・授業への出席状況、課題への取り組み、グループ等における発表や討論への参加状況 ・授業において作成する予定の課題解決のヒントや構想プラン ・授業において課すレポート、プレゼンテーション等			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回 オリエンテーション 学校経営と道徳教育の関連について、各種の事例や教育課題等と関連させながら解説し、グループ討議を取り入れて検討する。(植田・七條・松井) 第2回 学校経営における道徳教育の視点や関連等について、基本的な用語や考え方を理解する。(七條・植田・松井) 第3回 道徳教育の動向と課題について、学校経営の視点を踏まえたうえで具体的に解説する。(七條・松井) 第4回 実際の学校経営と道徳教育の実践について自らの体験をもとに、その概要についてふれる。学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制、学校経営における定められている願いと道徳教育のねらいとの関係、道徳教育に関するボトムアップの視点を生かした学校経営の実践を紹介する。(松井・七條) 第5回 学校経営で示される具体的事項と道徳教育に関する内容項目の関連について、事例を通して分類整理したり、実践における取組等について解説する。(植田・七條・松井) 第6回 グループ等で事前に調べてきた道徳教育の全体計画を比較しながら、学校経営に関する共通点や差異を整理する。(植田・七條・松井) 第7回 道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力に関して、実践事例をもとに改訂の動きを踏まえたうえで解説する。(七條・植田) 第8回 教育の目的である人格の完成と学校経営や道徳教育との関連について解説する。(櫻井・松井) 第9回 管理職、各主任、推進教師等の立場を想定して教職員全体に道徳教育の充実のための構想プランを呼びかける手順やビジョンをグループで検討する。(植田・七條・松井) 第10回 道徳教育の充実のための構想プランを教員も交えてグループで図表に記述する。(植田・七條・松井) 第11回 郷土の先人やふるさと学習(空海、平賀源内等)を学校の特色としている事例やその推進のための多様な方法について理解する。(植田・七條) 第12回 地域との連携を学校の特色としている事例やその推進のための多様な方法について理解する。(植田・松井) 第13回 学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。(植田・七條・松井) 第14回 学校における道徳教育の推進体制や計画の実践における実践的な課題解決のヒントや構想プランを道徳教育推進プランに生かして、グループごとに発表する。(植田・七條・松井)			



第15回 まとめ 院生が中心となり、教員も加わった「道徳教育で学校を変えようシンポジウム」を企画し実施する。他の院生や学部生等にも公開して行う。(植田・七條・松井)

教科書・参考書等

(教) 小学校学習指導要領解説 道徳編 (127円)、中学校学習指導要領解説 道徳編 (139円) 道徳教育に求められるリーダーシップ 七條正典・植田和也編 美巧社 1620円

現代の主要な道徳教育論に関する諸著作、各学校や地域における道徳教育研究成果の研究物等  
その他の教材等は授業において紹介する。

(参) 現代学校論 天野正輝 他 晃陽書房 (3600円)

総合的学習と連携を図る道徳学習 香川県小学校道徳教育研究会 明治図書 (2376円)

豊かな心を育てる教材「新ふるさとの心」 香川県教育委員会

道徳実践活動学習教材「豊かな心」21世紀を担う香川の子どもたちのために 香川県教育委員会

オフィスアワー 植田：昼休み並びに月曜日から水曜日の5コマ

事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。k-ueta@ed.kagawa-u.ac.jp

七條：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。shichijo@ed.kagawa-u.ac.jp

松井：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自学自習へのアドバイス：事前に調べてくる課題を出すので、グループ等で積極的に事例を集め、グループで話し合いに進んで参加しよう。課題を中心に整理する表や図を描いてみよう。

授業科目名 (時間割コード：910370) 学校改善とリーダーシップ School Improvement and Leadership of Teachers	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
担当教員名 柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	単位数 2	時間割 後期 火3	
学習時間 演習90分×15回+自学自習	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
授業の概要 組織としての学校の観点からリーダーシップを探究するとともに、学校改善を実践するために求められるリーダーシップを探究する。	関連授業科目		
授業の目的 組織としての学校に求められるリーダーシップを理解した上で、学校改善の事例を分析するとともに、学校改善を実践するために求められるリーダーシップ、効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件、スクールリーダーおよびミドルリーダーに求められるリーダーシップについて理解することを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標		学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)	
①組織としての学校に求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明することができる。 ②学校改善の事例を分析するとともに、学校改善を実践するために求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明することができる。 ③効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件について具体的な事例をもとに説明することができる。 ④スクールリーダーおよびミドルリーダーに求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明することができる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：各時間のターミナル・レポート (20) 課題解決力：各時間および全体討議での事例にもとづいた説明 (30) 社会的行動力：全体討議での実践課題の説明 (20) 総合的思考力：ファイナル・レポート (30)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 授業の目的および方法：問題意識の確認 (担当教員全員) 第2回 組織としての学校に求められるリーダーシップⅠ：スクールリーダー (担当教員全員) 第3回 組織としての学校に求められるリーダーシップⅡ：ミドルリーダー (担当教員全員) 第4回 学校改善の実践に求められるリーダーシップⅠ：スクールリーダー (担当教員全員) 第5回 学校改善の実践に求められるリーダーシップⅡ：ミドルリーダー (担当教員全員) 第6回 学校改善の実践に求められるリーダーシップの実践課題：全体討議 (担当教員全員) 第7回 小学校におけるスクールリーダーとミドルリーダーⅠ：スクールリーダー (柳澤・野村) 第8回 小学校におけるスクールリーダーとミドルリーダーⅡ：ミドルリーダー (柳澤・野村) 第9回 小学校における効果的な学校とリーダーシップⅠ：スクールリーダー (柳澤・野村) 第10回 小学校における効果的な学校とリーダーシップⅡ：ミドルリーダー (柳澤・野村) 第11回 中学校におけるスクールリーダーとミドルリーダーⅠ：スクールリーダー (柳澤・松井) 第12回 中学校におけるスクールリーダーとミドルリーダーⅡ：ミドルリーダー (柳澤・松井) 第13回 中学校における効果的な学校とリーダーシップⅠ：スクールリーダー (柳澤・松井) 第14回 中学校における効果的な学校とリーダーシップⅡ：ミドルリーダー (柳澤・松井) 第15回 効果的な学校とリーダーシップをめぐる実践課題：全体討議 (担当教員全員)			
自学自習へのアドバイス 勤務校での学校経営の取り組み事例を参考にしながら、事例を提示する準備をしておくこと。			
教科書・参考書等 (参) 小島弘道・淵上克義・露口健司 (2010) 『スクールリーダーシップ』学文社 (参) 小島弘道・熊谷愼之輔・末松裕基 (2012) 『学校づくりとスクールミドル』学文社 (参) 篠原清昭編著 (2012) 『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房 (参) 志水宏吉編 (2009) 『「力のある学校」の探究』大阪大学出版会			
オフィスアワー 金曜日5時限目 (8号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講生は、事例に関する質疑応答をはじめ、議論に対して積極的に参加することが求められる。			

授業科目名 (時間割コード：910371) 教職実践研究Ⅰ (学校力開発) Seminar on the Teaching Profession I (School Development)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 七條 正典, 柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	単位数 2	時間割 前期 木1	
	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 主に、実習科目における学校経営・学級経営に関する実践と学校力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。学校力開発に関わる各自の実践課題について、複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。先進的な取組をしている学校を訪問し、その取組内容を理論的に分析した上で、各自の課題の明確化を図る。実習を通して随時、グループまたは個別の理論的分析と省察を行い、実践課題や実習の取り組みについての見直しを行う。第3回および第14回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。			
<b>授業の目的</b> 実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の実践課題を明確化し、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目の実践と省察の記録(学校経営・学級経営実践記録)を体系的に分析することができる。</li> <li>・大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を行うことができる。</li> <li>・学校教育現場の実践と省察を的確に振り返り、課題解決の道筋を構想することができる。</li> <li>・実践課題の解決を目指した探究の成果を的確にまとめることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決力：学校課題・子供の実態などと実践プログラムの構想との整合性 (40)</li> <li>・社会的行動力：学校経営・学級経営に関する実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40)</li> <li>・総合的思考力：最終レポート(学校経営・学級経営に関する実践) (20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：オリエンテーション(専攻全体) 第2回：学校経営・学級経営に関する各学校の課題について、実習記録等を基に討議する(担当教員全員) 第3回：学校経営・学級経営に関する各自の課題について発表を交流し、課題の把握と整理をする(担当教員全員) 第4回：学校経営・学級経営に関する各学校の課題とつなげ、各自の実践課題を明確化・焦点化する(担当教員全員) 第5回：課題解決探究：チーム別演習1(担当教員全員) ※第5回～第12回は各自の 第6回：課題解決探究：チーム別演習2(担当教員全員) 実践に即して、個別または 第7回：課題解決探究：チーム別演習3(担当教員全員) グループ毎にチームで協議 第8回：課題解決探究：チーム別演習4(担当教員全員) 検討を進める。 第9回：課題解決探究：チーム別演習5(担当教員全員) 第10回：課題解決探究：チーム別演習6(担当教員全員) 第11回：課題解決探究：チーム別演習7(担当教員全員) 第12回：課題解決探究：チーム別演習8(担当教員全員) 第13回：課題解決探究の省察：各自の実践を振り返り、発表交流に向けて資料を作成する(担当教員全員) 第14回：課題解決探究の交流：各自の実践を発表交流し、自己の実践課題について考察を深める(担当教員全員) 第15回：教職実践研究の総括：各自で実践を振り返り、教職実践研究全体のまとめをする(担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 文部科学省(2010)「生徒指導提要」 (参) 香川県教育センター・香川大学教育学部(2014)「達人が伝授！」			
オフィスアワー 柳澤：金曜日5時限目(8号館4階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 各自のこれまでの学校経営・学級経営に関する実践の整理をした上で参加すること。			

授業科目名 (時間割コード：910372) 教職実践研究Ⅱ (学校力開発) Seminar on the Teaching Profession II (School Development)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 七條 正典, 柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	単位数 2	時間割 後期 木1	
	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 主に、実習科目における学校経営・学級経営に関する実践と学校力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。学校力開発に関わる各自の実践課題について、複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。前期に作成した学校力開発に関わる各自の実践課題についての改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。実践についての定期的な理論的分析と省察を通して、課題や実施内容の修正を行う。その成果は、中間まとめと最終まとめとして専攻全体の発表会で報告し、最終的には教職実践研究報告としてまとめる。教職実践研究フォーラムへの準備を行う。			
<b>授業の目的</b> 実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の実践課題を踏まえた実践プログラムを検証するとともに、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目の実践と省察の記録(学校経営・学級経営実践記録)を体系的に分析することができる。</li> <li>・大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を行うことができる。</li> <li>・学校教育現場の実践と省察を的確に振り返り、課題解決のための実践プログラムを構想することができる。</li> <li>・実践的課題の解決を目指した探究の成果を教職実践研究報告にまとめることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決力：学校課題・子供の実態などと実践プログラムの構想との整合性 (40)</li> <li>・社会的行動力：学校経営・学級経営に関する実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40)</li> <li>・総合的思考力：最終レポート(学校経営・学級経営に関する実践) (20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：オリエンテーション(専攻全体) 第2回：学校経営・学級経営に関する各自の実践課題に即した実践プログラムの発表の準備を行う(担当教員全員) 第3回：学校経営・学級経営に関する実践プログラムの発表交流を通して、実践課題を明確化する(担当教員全員) 第4回：学校経営・学級経営に関する発表交流を踏まえ、実践プログラムの修正を行う(担当教員全員) 第5回：課題解決探究：チーム別演習1(担当教員全員) ※第5回～第12回は各自の 第6回：課題解決探究：チーム別演習2(担当教員全員) 実践に即して、個別または 第7回：課題解決探究：チーム別演習3(担当教員全員) グループ毎にチームで協議 第8回：課題解決探究：チーム別演習4(担当教員全員) 検討を進める。 第9回：課題解決探究：チーム別演習5(担当教員全員) 第10回：課題解決探究：チーム別演習6(担当教員全員) 第11回：課題解決探究：チーム別演習7(担当教員全員) 第12回：課題解決探究：チーム別演習8(担当教員全員) 第13回：課題解決探究の省察：各自の実践を振り返り、発表交流に向けて資料を作成する(担当教員全員) 第14回：課題解決探究の交流：各自の実践を発表交流し、自己の実践課題について考察を深める(担当教員全員) 第15回：教職実践研究の総括：各自で実践を振り返り、教職実践研究全体のまとめをする(担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 文部科学省(2010)「生徒指導提要」 (参) 香川県教委気宇センター・香川大学教育学部(2014)「達人が伝授！」			
オフィスアワー 柳澤：金曜日5時限目(8号館4階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 前期の実践(「教職実践研究Ⅰ(学校力開発)」)を各自でまとめた上、参加すること。			











授業科目名 (時間割コード：910377) 学校力開発実習Ⅱ School Development Practicum II	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 木3～5	
担当教員名  七條 正典, 柳澤 良明, 野村 一夫, 松井 保	対象年次及び学科 2～ 教育学研究科 高度教職実践専攻		
	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。「学校力開発実習Ⅰ」の実践を通して改善した課題解決プランに即して、置籍校において課題解決のための取り組みを行い、その実践の結果について、実践記録を分析・整理し、評価する。その結果をまとめ、研究報告につなげる。			
<b>授業の目的</b> 作成した学校力開発に資する課題解決プランに基づいた実践を通して、課題の解決につながるプランをまとめることを目標とする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した学校力開発に資する課題解決プランを、学校の実態に即して実践することができる。</li> <li>・実践・省察を踏まえ、より実践に即した課題の解決につながるプランをまとめることができる。</li> <li>・実践記録を分析・整理し、評価を行い、研究報告に向けてのまとめを行うことができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した学校力開発に資する課題解決プランを、学校の実態に即して実践することができたか。(40)</li> <li>・実践・省察を踏まえ、より実践に即した課題の解決につながるプランをまとめることができたか。(40)</li> <li>・実践記録を分析・整理し、評価を行い、研究報告に向けてのまとめを行うことができたか。(20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回：オリエンテーション（担当教員全員） 第2回：修正した課題解決プランを再度協議し、チーム全体で確認する（担当教員全員） 第3回：確認した各自の課題解決プランに基づき、実践に向けた準備を行う（担当教員全員） 第4回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う1（担当教員全員） 第5回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う2（担当教員全員） 第6回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う3（担当教員全員） 第7回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う4（担当教員全員） 第8回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う5（担当教員全員） 第9回：各自の課題解決プランに基づき、実践・省察を行う6（担当教員全員） 第10回：実践を振り返り、課題解決プランの修正点について検討する（担当教員全体） 第12回：実践・省察を踏まえ、課題解決プランの改善を行う（担当教員全員） 第13回：改善した課題解決プランに基づき、これまでの実践の補充を行う1（担当教員全員） 第14回：改善した課題解決プランに基づき、これまでの実践の補充を行う2（担当教員全員） 第15回：実践全体を振り返り、自己の課題解決プランをまとめる（担当教員全員） 第16回：各自の実践を、チーム全体で交流し、その成果と課題を確認する（担当教員全員） ※第4～9回、第13～14回は、個々の課題解決プランに即した実践・省察を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考資料は随時配布する。			
オフィスアワー 柳澤：金曜日5時限目（8号館4階）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 「学校力開発実習Ⅰ」で学んだことを各自で整理した上で参加すること。			

授業科目名 (時間割コード：910378) 子ども理解と学習指導 Understanding children's individuality and their educational guidance	科目区分	水準DPコード 1ab×GL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 水2	
担当教員名 有馬 道久, 野崎 武司, 植田 和也	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習 90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、教師用RCRT法という心理学の手法を用いて、受講生一人ひとりの子どもをとらえる独自で無自覚の認知枠を明らかにする。そして、その認知枠を用いて学級全体の子ども認知図を作成し、子ども理解を深めるとともに、授業構想に活かす手立てを探る。授業は、演習形式で進める。この授業では、教師の児童・生徒理解の枠組みやそれが学級経営に及ぼす影響について、受講生一人ひとりの対人認知の観点を明らかにすることを通して、教育心理学の視点から解説・考察する。			
授業の目的 教師が授業や生徒指導、あるいは学級経営を行う上で基盤となるのが、その教師が児童生徒をどのような枠組みでとらえているかという点である。しかし、そうした理解の枠組みは多くの場合、無自覚あるいは無意識のうちに機能しているために、直接述べることが困難である。この授業はその理解の枠組みを教師用RCRT法という手法を用いて間接的に明らかにできるという特徴とその影響を考察できるという意義がある。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①児童・生徒理解の現状と課題について説明できる。 ②教師用RCRT法を自らに適用実施し、その結果を的確に記述・説明できる。 ③上記の分析結果を活用した授業構想案が作成できる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：教師用RCRT法実施報告書 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：授業構想案 (20)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション (担当教員全員) 第2回 子ども理解の視点と方法 (担当教員全員) 第3回 教師用RCRT法の概要 (担当教員全員) 第4回 教師用RCRT法の適用事例の紹介 (担当教員全員) 第5回 教師用RCRT法の回答手順の説明と試行 (担当教員全員) 第6回 受講者ごとの因子分析と結果の解釈：事例検討1回目 (担当教員全員) 第7回 受講者ごとの因子分析と結果の解釈：事例検討2回目 (担当教員全員) 第8回 受講者ごとの因子分析と結果の解釈：事例検討3回目 (担当教員全員) 第9回 子ども認知図の作成と見方：事例検討1回目 (担当教員全員) 第10回 子ども認知図の作成と見方：事例検討2回目 (担当教員全員) 第11回 教師用RCRT法の実施報告書の作成 (担当教員全員) 第12回 授業構想への活用：構想作成 (担当教員全員) 第13回 授業構想への活用：試行 (担当教員全員) 第14回 授業構想への活用：省察 (担当教員全員) 第15回 まとめ (担当教員全員)			
教科書・参考書等 (参) 近藤邦夫著『子どもと教師のもつれ 教育相談から』岩波書店			
オフィスアワー 有馬 木曜日 10時30分～11時30分、研究室：北8号館4F			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回の授業終了時に書いてもらう短いまとめ、考察、質問、それに対する担当教員のコメントを通して知識、理解、思考を深めましょう。			

授業科目名 (時間割コード：910379) 授業研究の実際 Practical Introduction For Lesson Study	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 火2	
担当教員名  野崎 武司, 有馬 道久, 植田 和也, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 授業研究を学ぶにあたり、質の高い授業実践記録の読解は不可欠である。それは、授業カンファレンスのプロセスを含めた自らの授業実践記録の作成へとつながるものでなければならない。ここでは、同一単元での授業デザイン・模擬授業・省察のグループ演習を柱にした授業実践記録の作成を主課題とする。			
<b>授業の目的</b> 授業研究の基本的な考え方を理解し、校内において効果的な授業研究を実践的に組織していくための資質能力を養うことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①質の高い授業実践記録の読解から、授業分析の観点を読み取ることができる。 ②授業分析の観点をもって具体的な授業実践を的確に解読できる。 ③授業カンファレンスで相互に高め合う効果的な議論を遂行できる。 ④授業カンファレンス・授業研究コミュニティの意義を体得する。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：授業分析と授業実践記録の有効性 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：最終レポート (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション (野崎・有馬) 第2回 授業カンファレンスの意義と効用 (野崎・有馬) 第3回 授業実践記録の読解 (野崎・有馬) 第4回 効果的な授業実践記録作成の方法論 (野崎・有馬) 第5回 授業研究コミュニティの構築の実践事例研究 (担当教員全員) 第6回 同一単元での教材開発と授業デザイン (担当教員全員) 第7回 同一単元でのチーム別指導案作成 (担当教員全員) 第8回 模擬授業1と省察 (担当教員全員) 第9回 模擬授業1の省察と授業実践記録作成 (担当教員全員) 第10回 模擬授業2と省察 (担当教員全員) 第11回 模擬授業2と授業実践記録作成 (担当教員全員) 第12回 模擬授業3と省察 (担当教員全員) 第13回 模擬授業3と授業実践記録作成 (担当教員全員) 第14回 授業実践記録の作成と教師の成長：討議 (担当教員全員) 第15回 授業実践記録の作成と授業研究コミュニティの成長：討議 (担当教員全員) 自学自習へのアドバイス 様々なタイプの典型授業の実践記録を読み込んで、実戦感覚を身に付けよう。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書 (参) 秋田喜代美ほか『授業の研究・教師の学習』明石書店 (参) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参) 齋藤喜博『学校づくりの記』国土社			
オフィスアワー 野崎：後期月3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。			

授業科目名 (時間割コード: 910380) 教材開発の理論と実践 Lesson Theory & Practical Development of Teaching Materials	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
担当教員名 野崎 武司, 有馬 信男, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎	単位数 2	時間割 後期 月5	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	対象年次及び学科 1~ 教育学研究科	高度教職実践専攻	
授業の概要 授業のユニバーサルデザイン、教えて考えさせる授業、協同学習等の授業実践例から、教材開発のための基本的な考え方を学ぶ。複数教科書の比較分析、教科書教材のさらなる教材化などの基礎的な共通演習をもとに、教材開発・模擬授業・省察のグループ演習を行う。	関連授業科目		
授業の目的 「新しい学び」の視点に立った教材開発の考え方と技法を学び、子どもの学習意欲と主体性を引き出す授業開発のための資質能力を養うことを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標		学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)	
①学習観の転換に基づく教材開発の考え方を理解できる。 ②教材開発の考え方を多様な教材で活用できる。 ③「新しい学び」を配慮した教材開発の有効性を分析できる。 ④「新しい学び」を配慮した教材開発の有効性を体系的に説明できる。			
成績評価の方法と基準 知識・理解: 基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力: 開発教材と解決課題との整合性 (40) 社会的行動力: グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力: 最終レポート (20)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション: 学習から学修へ (担当教員全員) 第2回 学習観の転換に基づく教材開発の考え方: 知の深さと活動のジレンマ (野崎・有馬) 第3回 学習観の転換に基づく教材開発の考え方: ピアインストラクションの実践事例から (野崎・有馬) 第4回 学習観の転換に基づく教材開発の考え方: 反転授業の実践事例から (野崎・有馬) 第5回 学習観の転換に基づく教材開発の考え方: 授業のユニバーサルデザインから (野崎・有馬) 第6回 学習観の転換に基づく教材開発の考え方: 教えて考えさせる授業から (野崎・有馬) 第7回 教材開発共通演習: 教科書教材の教材化演習 (担当教員全員) 第8回 教材開発共通演習: 教科書教材の教材化演習: 模擬授業 (担当教員全員) 第9回 教材開発共通演習: 教科書教材の教材化演習: 教材の有効性の省察 (担当教員全員) 第10回 教材開発グループ演習: グループによる教材選択と教材化 (担当教員全員) 第11回 教材開発グループ演習: グループによる模擬授業 (担当教員全員) 第12回 教材開発グループ演習: グループによる教材の有効性の省察 (担当教員全員) 第13回 教材開発グループ演習: 教材開発の考え方の整理 (担当教員全員) 第14回 「新しい学び」と教材開発: グループ別討議資料準備 (野崎・有馬) 第15回 「新しい学び」と教材開発: グループ討議 (野崎・有馬)			
自学自習へのアドバイス アクティブラーニング学習会 (学部生を対象とした模擬授業) に参加しよう。			
教科書・参考書等 (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書 (参) 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂 (参) 松下佳代『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房 (参) 市川伸一ほか『教えて考えさせる授業』図書文化 (参) エリザベス・パークレイ他『協同学習の技法』ナカニシヤ出版			
オフィスアワー 野崎: 後期月曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。			

授業科目名 (時間割コード：910381) 道徳授業の実践研究 Practice study on the Morality class	科目区分	水準DPコード 1ab×GL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 火4	
担当教員名  植田 和也, 齋藤 嘉則, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	道徳教育の実践研究	
	履修推奨科目	道徳教育と学校経営実践研究	
学習時間	講義・演習90分 × 15回 + 自学自習		
<b>授業の概要</b> 道徳授業の形骸化や画一化と言われる背景や子どもたちにとって魅力となる道徳授業の要因を理解するとともに、実践事例等を通して多様な方法の長所や配慮すべき点を検討する。また、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。さらに、道徳性の発達理論を理解するとともに、評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきか検討する。			
<b>授業の目的</b> 子どもにとって魅力ある道徳授業づくりの要因を理解するとともに、具体的な実践事例等を通して、多様な指導方法並びに発達理論の長所や配慮すべき点に分かり、心に響く道徳授業づくりの実践力を身につけることを目的とする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業に関する多様な指導方法を理解するとともに実際の指導案に工夫点等を具体的に生かすことができる。</li> <li>「私たちの道徳」や読み物資料等の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解するとともに実際の教材作成に生かすことができる。</li> <li>道徳授業の評価や道徳性に関する発達理論等について理解することができる。さらに、学校現場を想定して、評価に関するプランや手立てを各グループで話し合い具体的なビジョンを立てることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業に関する多様な指導方法や道徳性に関する発達理論を理解できる。(30)</li> <li>現代の主要な道徳授業や各種教材の特徴を実践事例等を通して適切に理解できる。(30)</li> <li>道徳授業や評価に関する諸課題を理解するとともに、その解決の具体的なヒントやプラン構想をグループで立てることができる。(40)</li> </ul> 以上の諸基準に基づき、以下の諸点を資料として総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業への出席状況、課題への取り組み、グループ等における発表や討論への参加状況</li> <li>授業において作成する予定の課題解決のヒントや構想プラン</li> <li>授業において課すレポート等</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション 道徳授業に関する課題等について、各種の調査データと関連させながら解説し、グループ討議を取り入れて概要について検討する。(担当教員全員) 第2回 子どもたちにとって魅力となる道徳授業の要因を検討するとともに、各々の機能や重要性について具体的な事例を通して理解する。(担当教員全員) 第3回 実際の資料分析を通して、資料提示、発問、役割演技、交流活動、板書等の効果的な実践について、演習を行う。(担当教員全員) 第4回 小学校における多様な道徳授業の指導方法の実際と長所や配慮すべき点を検討する。(担当教員全員) 第5回 小学校における多様な教材や資料の特徴について解説し各々の長所と課題について検討する。(植田・齋藤) 第6回 中学校における多様な道徳授業の指導方法の実際と長所や配慮すべき点を検討する。(齋藤・田崎) 第7回 中学校における多様な教材や資料の特徴について解説し各々の長所と課題について検討する。(齋藤・植田) 第8回 小中学校での実践事例等を通して多様な道徳授業の方法について解説し、まとめる。(担当教員全員) 第9回 様々な道徳性の発達理論に関しての具体的な演習を実施する。(植田・齋藤) 第10回 道徳性の発達理論に関する実践事例等から長所と課題についてまとめる。(植田・齋藤) 第11回 道徳授業の評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきかにつながる具体的なヒントや構想をグループで検討する。(担当教員全員) 第12回 評価に関する具体的な構想等をグループで発表し交流する。(担当教員全員) 第13回 実際の指導案に魅力ある道徳授業の要因や工夫点等を具体的に生かすことができる。(担当教員全員) 第14回 各グループ等で発表した課題やその改善点について全体で検討し具体案を整理する。(担当教員全員) 第15回 まとめ 院生が中心となり、教員も加わった「魅力ある道徳授業づくりシンポジウム」を企画し実施する。他の院生や学部生等にも公開して行う。(担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (教) 小学校学習指導要領解説 道徳編 (127円)、中学校学習指導要領解説 道徳編 (139円) 現代の主要な道徳教育論に関する諸著作、各学校や地域における道徳教育研究成果の研究物等 その他の教材等は授業において紹介する。 (参) 未来への扉を拓く道徳教育 七條正典編 美巧社 1620円			

「生きる力」を育む道徳授業 香川県小学校道徳教育研究会 松林社 (2000円)  
道徳授業のユニバーサルデザイン 坂本哲彦 東洋館出版社 (1944円)  
道徳授業で大切なこと 赤堀博行 東洋館出版社 (2052円)

オフィスアワー 植田：昼休み並びに月曜日から水曜日の5コマ  
事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。k-ueta@ed.kagawa-u.ac.jp  
齋藤：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。  
田崎：事前にメール等で日程調整があれば、その都度相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自学自習へのアドバイス：事前に調べてくる課題を出すので、グループ等で積極的に事例を集め、グループで話し合いに進んで参加しよう。課題を中心に整理する表や図を描いてみよう。

授業科目名 (時間割コード：910382) 教科の本質と授業開発 Lesson Development with School Subjects Essentials	科目区分	水準DPコード 1abGL	分野コード
担当教員名 野崎 武司, 植田 和也, 岡 晋平	単位数 2	時間割 前期 木5	
	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> これまで教科教育は、学校教育の大きな柱であった。しかし現代社会が抱える諸問題は、教科というカテゴリーを超えて、絶えず新たな様相を呈してきている。しかし、児童・生徒にとって、複雑で複合的な諸問題に直接対峙することは難しい。広い視野で世界を捉え、考察していくためには、教科の本質に基づいた系統的な積み上げは不可欠である。ここに、教科教育、新しい学び、総合的な学習の時間などをトータルに考察しなければならない必然性がある。これまで教科教育研究は、それぞれに分立し、学校教育の現代的課題に則して自らの姿を捉え直す視点に欠けていたのではないかと。本授業は、学校教育の現代的課題に則して、教科教育を大きく振り返り、各教科において「新しい学び」の可能性を拓く視野を培うことを目的とする。			
<b>授業の目的</b> 学校教育の現代的課題に則して、教科教育のあり方を振り返り、各教科において「新しい学び」の可能性を拓く視野を培うことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①教科の本質論をこれまでの系譜から再検討することができる。 ②教科の本質論を学校教育の現代的課題と関わらせて検討することができる。 ③各教科・各学派の典型授業を具体的に分析し、これからの教育に向けて再構成することができる。 ④「新しい学び」と教科教育の可能性について論述できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 知識・理解：基本的な理解に関する毎時間のミニレポート (20) 課題解決力：授業分析と授業実践記録の有効性 (40) 社会的行動力：グループワーク時の行動評価 (20) 総合的思考力：最終レポート (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション：学校教育の現代的課題と教科教育 (野崎・植田) 第2回 教科の本質論：共通演習：系統主義と経験主義論争の系譜 (野崎・植田) 第3回 教科の本質論：共通演習：生活の論理と学問の論理 (野崎・植田) 第4回 教科の本質論：共通演習：学力論の系譜 (野崎・植田) 第5回 教科の本質論：共通演習：学習指導要領の系譜 (野崎・植田) 第6回 教科の本質論：共通演習：民間教育研究運動の系譜 (野崎・植田) 第7回 教科の本質論：教科別グループ演習：多様な学派の教科論の分析 (野崎・植田) 第8回 教科の本質論：教科別グループ演習：多様な学派の典型授業の分析 (野崎・植田) 第9回 教科の本質論：教科別グループ演習：典型授業を参考に模擬授業づくり (野崎・植田) 第10回 教科の本質論：教科別グループ演習：模擬授業の実践と省察 (野崎・植田) 第11回 教科の本質論：教科別グループ演習：模擬授業の省察と教科の本質論の検討 (野崎・植田) 第12回 教科の本質論：共同討議への準備：教科教育の本質論を振り返る (野崎・植田) 第13回 教科の本質論：共同討議への準備：学校教育の現代的課題と教科の本質論を探る (野崎・植田) 第14回 教科の本質論：共同討議：「新しい学び」と教科教育の可能性 (野崎・植田) 第15回 共同討議の総括 (野崎・植田)			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 柴田義松編『教科の本質と授業 総論編』明治図書 (参) 柴田義松編『教科の本質と授業』(各教科編) 明治図書 (参) 田中耕治 (編著)『よくわかる授業論』ミネルバ書房			
<b>オフィスアワー</b> 野崎：前期月曜日5講目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 毎回出席をとります。			

授業科目名 教職実践研究Ⅰ（授業力開発） Seminar on the Teaching Profession (Lesson Development) Ⅰ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 有馬 道久, 野崎 武司, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎, 清水 顕人, 橋 慎二郎	単位数 2	時間割 前期 木1	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
授業の概要 主に、実習科目における授業実践と授業力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議・検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。	関連授業科目		
授業の目的 実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標	学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)		
①実習科目の実践と省察の記録（授業実践記録）を体系的に分析することができる。 ②大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を遂行できる。 ③学校教育現場の実践と省察を的確に振り返り、課題解決の道筋を構想することができる。 ④実践的課題の解決を目指した探究の成果を的確にまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性（40） 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価（40） 総合的思考力：最終レポート（授業実践記録）（20）			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション（専攻専任教員全員） 第2回 協力校・置籍校の理論的分析と討議：（例）学校課題の把握と整理（担当教員全員） 第3回 協力校・置籍校の理論的分析と討議：（例）学年課題の把握と整理（担当教員全員） 第4回 協力校・置籍校の分析と討議：（例）学級課題の把握と整理（担当教員全員） 第5回 授業実践記録の理論的分析と討議：（例）授業の目的と子どもの実態との整合性（担当教員全員） 第6回 授業実践記録の理論的分析と討議：（例）開発教材と子どもの実態との整合性（担当教員全員） 第7回 授業実践記録の理論的分析と討議：（例）指導技術と子どもの実態との整合性（担当教員全員） 第8回 課題解決探究：（例）教材開発演習（担当教員全員） 第9回 課題解決探究：（例）単元開発演習（担当教員全員） 第10回 課題解決探究：（例）授業（一次）開発演習（担当教員全員） 第11回 課題解決探究：（例）授業（二次）開発演習（担当教員全員） 第12回 課題解決探究：（例）授業（三次）開発演習（担当教員全員） 第13回 課題解決探究の総括1：チーム内総合的省察（担当教員全員） 第14回 課題解決探究の総括2：コース内総合的省察（担当教員全員） 第15回 教職実践研究の交流：総合的省察（専攻専任教員全員）  自学自習へのアドバイス 創造的な探究に向けて多様な視点から先行実践・先行研究を探ろう。焦点となる課題を中心に概念図を描いてみよう。			
教科書・参考書等 （参）稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 （参）秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 （参）柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：前期月曜日5講目 有馬：木曜日 10：30～11：30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。			



授業科目名 (時間割コード：910384) 教職実践研究Ⅱ (授業力開発) Seminar on the Teaching Profession (Lesson Development) Ⅱ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 有馬 道久, 野崎 武司, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎, 清水 顕人, 橋 慎二郎	単位数 2	時間割 後期 木1	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
授業の概要 主に、実習科目における授業実践と授業力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議・検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、後期の実習のまとめを行う。	関連授業科目		
授業の目的 実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標		学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)	
①実習科目の実践と省察の記録(授業実践記録)を体系的に分析することができる。 ②大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を遂行できる。 ③学校教育現場の実践と省察を的確に振り返り、課題解決の道筋を構想することができる。 ④実践的課題の解決を目指した探究の成果を的確にまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性 (40) 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40) 総合的思考力：最終レポート(授業実践記録) (20)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション：前期の「教職実践研究Ⅰ」の振り返りと課題の明確化(専攻専任教員全員) 第2回 協力校・置籍校の再検討：(例)学校課題の把握と整理(担当教員全員) 第3回 協力校・置籍校の再検討：(例)学年課題の把握と整理(担当教員全員) 第4回 協力校・置籍校の再検討：(例)学級課題の把握と整理(担当教員全員) 第5回 授業実践記録の理論的分析と討議：(例)授業の目的と子どもの実態との整合性(チーム担当教員) 第6回 授業実践記録の理論的分析と討議：(例)開発教材と子どもの実態との整合性(担当教員全員) 第7回 授業実践記録の理論的分析と討議：(例)指導技術と子どもの実態との整合性(担当教員全員) 第8回 課題解決探究：(例)教材開発演習(担当教員全員) 第9回 課題解決探究：(例)単元開発演習(担当教員全員) 第10回 課題解決探究の中間交流(担当教員全員) 第11回 課題解決探究：(例)授業(一次)開発演習(担当教員全員) 第12回 課題解決探究：(例)授業(二次)開発演習(担当教員全員) 第13回 課題解決探究：(例)授業(三次)開発演習(担当教員全員) 第14回 課題解決探究の総括：チーム内総合的省察(担当教員全員) 第15回 教職実践研究の交流：総合的省察(専攻専任教員全員)  自学自習へのアドバイス 創造的な探究に向けて多様な視点から先行実践・先行研究を探ろう。焦点となる課題を中心に概念図を描いてみよう。			
教科書・参考書等 (参) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参) 秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：後期月曜日3講目 有馬：木曜日10：30～11：30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。			

授業科目名 (時間割コード：910385) 学校臨床基礎実習Ⅰ Fundamental School PracticumⅠ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 金1～3	
担当教員名  七條 正典, 野崎 武司, 野村 一夫, 松井 保, 田崎 伸一郎, 清水 顕人, 橘 慎二郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	学校臨床基礎実習Ⅱ	
学習時間	実習1日5時間×16回=80時間+自学自習		
<b>授業の概要</b> 連携協力校(主に附属学校)において、学校経営・学級経営・授業経営等の視点から観察実習やシャドーイングを通して、学校教育における課題の現状を把握する。把握した課題に基づいて、課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践を行う(課題解決のため、部分的に集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある)。予備的試行実践の結果を省察し、実践課題の明確化を図る。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。			
<b>授業の目的</b> 学部段階における実習を踏まえ、さらに学校力・授業力の視点からより実践的な実習を行い、課題解決に向けた実践的指導力の定着を図る。大学院生(学部卒学生)の基礎的な授業力を確実に保証することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の教育課題の達成に向けた基礎的な指導力の定着を図ることができる。</li> <li>課題解決に向けたプログラム作成のための見通しをもつことができる。</li> <li>実践の場を共有することを通して、探究すべき教育課題を具体的に把握することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自の教育課題の達成に向けた基礎的な指導力の定着が図られたか。(40)</li> <li>教育課題とつなげた解決のためのプログラム(案)をいくつか構想することができたか。(40)</li> <li>実践の場を共有することを通して、探究すべき教育課題を具体的に把握することができたか。(20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：オリエンテーション(担当者全員) 第2回：教育課題の把握に向け、観察実習・シャドーイングを行う1(担当教員全員) 第3回：教育課題の把握に向け、観察実習・シャドーイングを行う2(担当教員全員) 第4回：教育課題の把握に向け、観察実習・シャドーイングを行う3(担当教員全員) 第5回：想定される教育課題の視点から観察実習・シャドーイングを行い、教育課題の明確化を図る(担当教員全員) 第6回：想定される教育課題を踏まえ、その解決に向けた実践プログラムを作成する(担当教員全員) 第7回：課題達成に向けた基礎的な指導力向上のための学級経営及び授業の実践・省察を行う1(担当教員全員) 第8回：課題達成に向けた基礎的な指導力向上のための学級経営及び授業の実践・省察を行う2(担当教員全員) 第9回：課題達成に向けた基礎的な指導力向上のための学級経営及び授業の実践・省察を行う3(担当教員全員) 第10回：課題達成に向けた基礎的な指導力向上のための学級経営及び授業の実践・省察を行う4(担当教員全員) 第11回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う1(担当教員全員) 第12回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う2(担当教員全員) 第13回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う3(担当教員全員) 第14回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う4(担当教員全員) 第15回：実習全体の振り返りと実践課題の明確化を図る(担当教員全員) 第16回：各自の実践課題の発表と学校臨床実践演習Ⅰのまとめをする(担当教員全員) ※第6～9回、第10～13回は個々の課題に即した実践・省察を通して力量形成と課題解決プランの改善充実を図る			
<b>教科書・参考書等</b> 参考資料は随時配布。			
オフィスアワー 野崎：前期月曜日5校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 附属学校での分散実習です。			

授業科目名 (時間割コード：910386) 学校臨床基礎実習Ⅱ Fundamental School Practicum Ⅱ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 金1～3	
担当教員名  七條 正典, 野崎 武司, 野村 一夫, 松井 保, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	学校臨床基礎実習Ⅰ	
学習時間	実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習		
<b>授業の概要</b> 連携協力校（主に公立学校）における教育課題の現状について理解を深めるとともに、「学校臨床基礎実習Ⅰ」で予備的に試行実践した課題解決方法に基づいて、連携協力校（主に公立学校）においてさらに試行実践を行い検討する（課題解決のため、部分的に集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある）。P D C Aサイクルによって、課題解決方法の改善点の分析を行う。			
<b>授業の目的</b> 連携協力校（主に公立学校）における実習を通して、さらに学校力・授業力の視点からより実践的指導力の向上を図るとともに、課題解決方法を検証しその改善を行う。大学院生（学部卒学生）の基礎的な授業力を確実に保証することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課題の解決に向けた実践的指導力の一層の向上を図ることができる。</li> <li>・教育課題の解決に向けたプログラム案を作成することができる。</li> <li>・実践の場を共有することを通して、自らが探究すべき教育課題を明確化することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課題の解決に向けた実践的指導力の一層の向上を図ることができたか。(40)</li> <li>・教育課題の解決に向けたプログラム案を作成することができたか。(40)</li> <li>・実践の場を共有することを通して、自らが探究すべき教育課題を明確化することができたか。(20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回：オリエンテーション（担当教員全員） 第2回：当該の学校や学級に即した教育課題の把握に向け、学級経営・授業実践に参加する1（担当教員全員） 第3回：当該の学校や学級に即した教育課題の把握に向け、学級経営・授業実践に参加する2（担当教員全員） 第4回：当該の学校や学級に即した教育課題の把握に向け、学級経営・授業実践に参加する3（担当教員全員） 第5回：当該の学校や学級に即した教育課題の把握に向け、学級経営・授業実践に参加する4（担当教員全員） 第6回：想定される教育課題を踏まえ、その解決に向けた実践プログラムを作成する（担当教員全員） 第7回：教育課題の解決に向けた学級経営及び授業の実践・省察を行う1（担当教員全員） 第8回：教育課題の解決に向けた学級経営及び授業の実践・省察を行う2（担当教員全員） 第9回：教育課題の解決に向けた学級経営及び授業の実践・省察を行う3（担当教員全員） 第10回：教育課題の解決に向けた学級経営及び授業の実践・省察を行う4（担当教員全員） 第11回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う1（担当教員全員） 第12回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う2（担当教員全員） 第13回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う3（担当教員全員） 第14回：課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践・省察を行う4（担当教員全員） 第15回：実習全体の振り返りと実践課題の明確化及び課題解決プラン(案)の作成（担当教員全員） 第16回：各自の取組の成果の発表と学校臨床実践演習Ⅱのまとめをする（担当教員全員） ※第2～5回、第7～10回、第11～14回は、各段階の目標を目指して、個々の課題に即した実践・省察を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考資料は随時配布。			
オフィスアワー 野崎：後期月曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 協力校での分散実習です。			

授業科目名 (時間割コード：910387) 学校臨床実習Ⅰ (授業力開発) School Practicum (Lesson Development) Ⅰ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 金1～3	
担当教員名  野崎 武司, 有馬 道久, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科 1～	教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 連携協力校もしくは置籍校において分散型(一部集中型)実習として履修する。授業に関わる現代的課題をテーマに、教育現場を臨的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心とする。 「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。			
<b>授業の目的</b> 1学期の活動を通して、授業に関わる現代的課題をテーマに、連携協力校もしくは置籍校の教育活動に臨的に参与する中で、教育課題を実践現場の具体性の中で捉え、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けた見通しを持たせることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①担当学級の課題を的確に捉え、課題解決のための単元(新しい学び)を構想できる。 ②協力校の教員、大学教員とチームとして遂行した一単元の授業実践を的確に省察できる。 ③授業構想・実践・省察を通じて、教育の現代的課題を具体的に明確にすることができる。 ④一単元の授業構想・実践・省察を的確に臨床体験記録としてまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性 (40) 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40) 総合的思考力：最終レポート(臨床体験記録) (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション(コース担当教員) 第2回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)学校を取り巻く課題の把握(チーム担当教員) 第3回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)学校経営方針の把握(チーム担当教員) 第4回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)学校・学年の実態と単元構想への参与(チーム担当教員) 第5回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)子どもの実態と単元構想への参与(チーム担当教員) 第6回 教材開発と授業構想：(例)子どもに求める学力と教材開発・授業構想への参与(チーム担当教員) 第7回 教材開発と授業構想：(例)子どもの興味・関心を配慮した授業構想への参与(チーム担当教員) 第8回 授業実践と省察1：(例)子どもの診断的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第9回 授業実践と省察2：(例)子どもの形成的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第10回 授業実践と省察3：(例)子どもの行動分析と授業分析への参与(チーム担当教員) 第11回 授業実践と省察4：(例)子どもの発話分析と授業分析への参与(チーム担当教員) 第12回 授業実践と省察5：(例)子どもの活動成果物と授業分析への参与(チーム担当教員) 第13回 授業実践と省察6：(例)子どもの総合的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第14回 授業実践記録の作成：総合的省察1(コース担当教員) 第15回 授業実践記録の作成：総合的省察2(コース担当教員) 第16回 実習の成果の交流：総合的省察2(コース担当教員)			
※連携協力校もしくは置籍校における校内授業研究会へ参与する。			
<b>教科書・参考書等</b> (参)稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参)秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 (参)柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：前期月曜日5講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 置籍校での分散実習です。			

授業科目名 (時間割コード：910388) 学校臨床実習Ⅱ (授業力開発) School Practicum (Lesson Development) Ⅱ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 金1～3	
担当教員名  野崎 武司, 有馬 道久, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 連携協力校もしくは置籍校において分散型(一部集中型)実習として履修する。授業に関わる現代的課題をテーマに、教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。 「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。			
<b>授業の目的</b> 2学期の活動を通して、授業に関わる現代的課題をテーマに、連携協力校もしくは置籍校の教育活動に臨床的に参与する中で、教育課題を実践現場の具体性の中で捉え、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けた見通しを持たせることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①担当学級の課題を的確に捉え、課題解決のための単元(新しい学び)を構想できる。 ②協力校の教員、大学教員とチームとして遂行した一単元の授業実践を的確に省察できる。 ③授業構想・実践・省察を通じて、教育の現代的課題を具体的に明確にすることができる。 ④一単元の授業構想・実践・省察を的確に臨床体験記録としてまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性 (40) 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40) 総合的思考力：最終レポート(臨床体験記録) (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション：「学校臨床実習Ⅰ」の振り返りと課題の明確化(コース担当教員) 第2回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)2学期の教育計画の把握(チーム担当教員) 第3回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)子どもの実態の把握(チーム担当教員) 第4回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)学校・学年の実態と単元構想への参与(チーム担当教員) 第5回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)子どもの実態と単元構想への参与(チーム担当教員) 第6回 教材開発と授業構想：(例)子どもに求める学力と教材開発・授業構想への参与(チーム担当教員) 第7回 教材開発と授業構想：(例)子どもの興味・関心を配慮した授業構想への参与(チーム担当教員) 第8回 授業実践と省察1：(例)子どもの診断的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第9回 授業実践と省察2：(例)子どもの形成的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第10回 授業実践と省察3：(例)子どもの行動分析と授業分析への参与(チーム担当教員) 第11回 授業実践と省察4：(例)子どもの発話分析と授業分析への参与(チーム担当教員) 第12回 授業実践と省察5：(例)子どもの活動成果物と授業分析への参与(チーム担当教員) 第13回 授業実践と省察6：(例)子どもの総合的評価と授業分析への参与(チーム担当教員) 第14回 授業実践記録の作成：総合的省察1(コース担当教員) 第15回 実習の成果の交流：総合的省察2(コース担当教員)			
※ 連携協力校もしくは置籍校における校内授業研究会へ参与する。 ※ 教職実践研究フォーラム、あわせて、香川県教育委員会主催の「香川の教育づくり研究会」、香川県教育センター研究発表会などへ参与する。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参) 秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：後期月曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 置籍校での分散実習です。			

授業科目名 (時間割コード：910389) 探究実習 (授業力開発) School Inquiring Practicum (Lesson Development)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 集中	
担当教員名  植田 和也, 野崎 武司, 有馬 道久, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎, 清水 顕人, 橋 慎二郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	授業力開発実習	
学習時間	集中型実習2週間 (10日) + 自学自習		
<b>授業の概要</b> [学部卒学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。授業力向上につながる構想力、実践力、省察力を一層みがくとともに、授業実践記録を通して客観的に分析できる力量が高められる演習を核とする。さらに、組織の活性化をいかに図るかについて、附属学校教員・大学教員も交えてリフレクションの多様な在り方について、運営しながら学ぶ機会とする。 [現職教員学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。研究推進校としての授業研究の課題を理解し、授業研究に参画する。また附属学校教員の指導の観察実習を通して、担当学級配属の学部生の授業づくりや学級経営を焦点に、指導助言する。ミドルリーダーとしての役割を意識するとともに、初任者や若年教員を育てる指導の在り方や方法を追究する。			
<b>授業の目的</b> 研究推進校特有の学校経営上の諸課題を理解し、効果的に参画・支援する。基本的な実践課題の設定および探究を行うとともに、基本的な実践課題の省察、実践記録の作成を行う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
[学部卒学生履修] ①教員との協働関係を構築し、実践記録の作成を通して自らの取り組みを客観的に分析することができる。 ②授業力向上につながる構想力、実践力、省察力に関して、自らの実践や現職教員学生の授業を分析することでより良い授業づくりのポイントを説明できる。 [現職教員学生履修] ①研究推進校としての授業研究の課題を理解し、授業研究に参画できる。 ②附属学校教員の指導の観察実習を通して、配属の学部生を伸ばすための支援を遂行できる。中核教員としての役割を意識し、自らだけでなく初任者や若年教員の授業力向上に何が必要で、そのために自分が学校現場において、どのようにかかわるかや指導すべきかの具体的方法を身に付けることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> [学部卒学生履修] 実践記録の客観的な分析(50) 授業づくりのポイントの理解(30) 授業実践への取り組み (20) [現職教員学生履修] 分析方法の理解と多様な省察力 (30) 組織の探究力向上への意識と理解 (30) 育てる指導の探究・実践(40)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 本実習は、2週間にわたる集中型実習のため、1週目を第1回～第7回として、2週目を第8回～第15回として下記の通り計画しているが、参観や授業実施等は附属学校等との調整で一部変更等もありうる。また、1日のなかで学部実習生の授業参観や討議に一部参加する場面も出てくることもある。また、附属学校教員・大学教員も交えてリフレクションの多様な在り方について学ぶ機会を位置付ける。担当教員は、チームを形成して全員で関わる。 事前学習 附属学校の授業研究上の課題分析と附属学校側との共同討議			
(1週目 第1回～第7回)			
第1日目	オリエンテーション	[学部卒学生履修] 協働関係の構築	[現職教員学生履修] 校内授業研究の理解
第2日目	授業の構想力について	参観の視点と授業構想	若年教員の育成と授業力の課題
第3日目	授業の実践力について	構想を実践に生かす	授業の要素と助言のポイント
第4日目	授業実践とリフレクション	めざす授業実践への挑戦	授業サポートの在り方
第5日目	授業の省察力について	授業分析と省察	分析方法と多様な省察
(2週目 第8回～第15回)			
第6日目	現職の授業に学ぶ	参観の視点と授業記録	校内授業研究への参画
第7日目	現職の授業に学ぶ	参観の視点と授業記録	活用・探究の授業実践をめざして
第8日目	チームでリフレクション	多様なリフレクション	チームで育てる指導の探究
第9日目	組織の活性化	組織における個の役割	組織の探究力向上のために
第10日目	取り組みの分析	全体のリフレクションを通して実践をまとめる	
自学自習へのアドバイス			

毎日の実習記録を丁寧に作成するとともに、1日の取り組みを省察する。
教科書・参考書等 (教) 田中耕治 編 (2007)『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房 佐伯胖 他著 (1989)『すぐれた授業とはなにか』東京大学出版会 (参) 梶田叡一 他編著 (2003)『授業改革ハンドブック』第一法規
オフィスアワー 金曜日5限
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 附属学校での集中実習です。

授業科目名 (時間割コード：910390) 授業力開発実習Ⅰ Lesson Development PracticumⅠ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 金1～3	
担当教員名  野崎 武司, 有馬 道久, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	授業力開発実習Ⅱ	
学習時間	実習1日5時間×16回＝80時間 + 自学自習		
<b>授業の概要</b> [学部卒学生履修] 連携協力校において分散型(一部集中型)実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。それに基づいた基本的な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。 [現職教員学生履修] 連携協力校もしくは置籍校において分散型(一部集中型)実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。			
<b>授業の目的</b> 連携協力校もしくは置籍校における教育課題を捉え、チームとして教育実践を展開・省察することにより、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けた見通しを持たせることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①担当学級の課題を的確に捉え、課題解決のための単元(新しい学び)を構想できる。 ②協力校の教員、大学教員とチームとして遂行した一単元の授業実践を的確に省察できる。 ③授業構想・実践・省察を通じて、自己自身の実践的課題を明確にすることができる。 ④一単元の授業構想・実践・省察を的確に授業実践記録としてまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性 (40) 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40) 総合的思考力：最終レポート(授業実践記録) (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション(担当教員全員) 第2回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)学校を取り巻く課題の把握(チーム担当教員) 第3回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)学校経営方針の把握(チーム担当教員) 第4回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)学校・学年・学級の実態と単元構想(チーム担当教員) 第5回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)子どもの実態と単元構想(チーム担当教員) 第6回 教材開発と授業構想：(例)子どもに求める学力と教材開発・授業構想(チーム担当教員) 第7回 教材開発と授業構想：(例)子どもの興味・関心を配慮した授業構想(チーム担当教員) 第8回 授業実践と省察1：(例)子どもの診断的評価と授業分析(チーム担当教員) 第9回 授業実践と省察2：(例)子どもの形成的評価と授業分析(チーム担当教員) 第10回 授業実践と省察3：(例)子どもの行動分析と授業分析(チーム担当教員) 第11回 授業実践と省察4：(例)子どもの発話分析と授業分析(チーム担当教員) 第12回 授業実践と省察5：(例)子どものグループ活動分析と授業分析(チーム担当教員) 第13回 授業実践と省察6：(例)子どもの学修成果分析と授業分析(チーム担当教員) 第14回 授業実践と省察7：(例)子どもの総合的評価と授業分析(チーム担当教員) 第15回 授業実践記録の作成：総合的省察1(担当教員全員) 第16回 実習の成果の交流：総合的省察2(担当教員全員) ※連携協力校もしくは置籍校において、校内授業研究会を開催し、学修成果について検討を深める。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参) 秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：前期月曜日5講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 置籍校・協力校での分散実習です。			



授業科目名 (時間割コード：910391) 授業力開発実習Ⅱ Lesson Development Practicum Ⅱ	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 金1～3	
担当教員名  野崎 武司, 有馬 道久, 植田 和也, 齊藤 嘉則, 田崎 伸一郎	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	授業力開発実習Ⅰ	
学習時間	実習1日5時間×16回=80時間 + 自学自習		
<b>授業の概要</b> [学部卒学生履修] 連携協力校において分散型(一部集中型)実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした年間の授業実践記録の作成が求められる。 [現職教員学生履修] 連携協力校もしくは置籍校において分散型(一部集中型)実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。			
<b>授業の目的</b> 連携協力校もしくは置籍校における教育課題を捉え、チームとして教育実践(課題解決プログラム)を展開・省察することにより、その課題解決プログラムの有効性を吟味するとともに、各自の自己課題を改めて確認し、学び続ける教員としての今後の展望を持たせることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①担当学級の課題を的確に捉え、課題解決のための単元(新しい学び)を構想できる。 ②協力校の教員、大学教員とチームとして遂行した一単元の授業実践を的確に省察できる。 ③授業構想・実践・省察を通じて、自己自身の実践的課題を明確にすることができる。 ④一単元の授業構想・実践・省察を的確に授業実践記録としてまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題解決力：学校課題・子どもの実態などと単元・授業構想との整合性 (40) 社会的行動力：授業実践の省察にかかるグループワーク時の行動評価 (40) 総合的思考力：最終レポート(授業実践記録) (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回 オリエンテーション：「授業力開発実習Ⅰ」の振り返りと課題の明確化(担当教員全員) 第2回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)第二学期の教育計画の把握(チーム担当教員) 第3回 学校課題・子どもの課題の把握と整理：(例)子どもの実態の把握(チーム担当教員) 第4回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)学校・学年・学級の実態と単元構想(チーム担当教員) 第5回 学校課題・子どもの課題と単元構想：(例)子どもの実態と単元構想(チーム担当教員) 第6回 教材開発と授業構想：(例)子どもに求める学力と教材開発・授業構想(チーム担当教員) 第7回 教材開発と授業構想：(例)子どもの興味・関心を配慮した授業構想(チーム担当教員) 第8回 授業実践と省察1：(例)子どもの診断的評価と授業分析(チーム担当教員) 第9回 授業実践と省察2：(例)子どもの形成的評価と授業分析(チーム担当教員) 第10回 授業実践と省察3：(例)子どもの行動分析と授業分析(チーム担当教員) 第11回 授業実践と省察4：(例)子どもの発話分析と授業分析(チーム担当教員) 第12回 授業実践と省察5：(例)子どものグループ活動分析と授業分析(チーム担当教員) 第13回 授業実践と省察6：(例)子どもの学習成果分析と授業分析(チーム担当教員) 第14回 授業実践と省察6：(例)子どもの総合的評価と授業分析(チーム担当教員) 第15回 授業実践記録の作成：総合的省察1(担当教員全員) 第16回 実習の成果の交流：総合的省察2(担当教員全員) ※ 連携協力校もしくは置籍校において、校内授業研究会を開催し、学修成果について検討を深める。 ※ 学修の総合的な省察は、教職実践研究フォーラムにおいて発表する。あわせて、香川県教育委員会主催の「香川の教育づくり研究会」、香川県教育センター研究発表会などで外部発信する。			
<b>教科書・参考書等</b> (参) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』岩波書店 (参) 秋田喜代美ほか『授業の研究 教師の学習』明石書店 (参) 柴田義松『21世紀を拓く教授学』明治図書			
オフィスアワー 野崎：後期月曜日3講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 置籍校・協力校での分散実習です。			

授業科目名 心理検査の理論と実際 (時間割コード：910392)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 月4	
担当教員名  恵羅 修吉, 中島栄美子	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	発達と学力のアセスメント	
	履修推奨科目	障害児心理学特論	
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習		
授業の概要 特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした、代表的な心理検査を取り上げ、検査に関わる倫理、具体的な実施方法、関連する専門的知識の理解と習得をめざす。心理検査としては、WISC-IV知能検査、KABC-II心理教育アセスメント、DN-CASを取り上げる。特別支援教育に関わる心理検査の概要を理解した上で、それぞれの検査に関する背景思想や神経心理学的解釈に必要な基礎的理論について学ぶとともに、検査結果の活用と学校教育に関して理解を深める。			
授業の目的 特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした、代表的な心理学的検査を取り上げ、具体的な実施方法や関連する専門的知識の習得をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>心理検査に関する心理学理論について理解を深める。</li> <li>本講義で取り上げた検査を自ら実施することができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>各検査について課題レポートを設定する。</li> <li>WISC-IV(40)、KABC-II(30)、DN-CAS(20)、グループ協議(10)</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回：心理教育的アセスメントとは：概説（恵羅修吉） 第2回：心理教育的アセスメントとは：検査の倫理と方法（恵羅修吉） 第3回：WISC-IV：概説（恵羅修吉） 第4回：WISC-IV：実施実習1（恵羅修吉・中島栄美子） 第5回：WISC-IV：実施実習2（恵羅修吉・中島栄美子） 第6回：WISC-IV：結果処理実習（恵羅修吉・中島栄美子） 第7回：WISC-IV：解釈（恵羅修吉） 第8回：KABC-II：概説（恵羅修吉） 第9回：KABC-II：実施実習（恵羅修吉・中島栄美子） 第10回：KABC-II：結果処理と解釈（恵羅修吉・中島栄美子） 第11回：DN-CAS：概説と実施実習（恵羅修吉） 第12回：DN-CAS：実施実習と結果処理（恵羅修吉） 第13回：神経心理学的解釈の基礎（恵羅修吉） 第14回：総合的解釈（恵羅修吉） 第15回：まとめ：心理検査の活用と学校教育（恵羅修吉）			
教科書・参考書等 (教) 竹田契一・上野一彦・花熊暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」金剛出版 (参) WISC-IV、KABC-II、DN-CASのそれぞれの公式マニュアル (参) A・プリフィテラ他「WISC-IVの臨床的利用と解釈」日本文科学社			
オフィスアワー 月曜日5 講目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特別支援教育コーディネーターとして心理検査の理解は不可欠である。 心理学や特別支援教育に関わる専門職としての倫理規定を遵守すること。			

授業科目名 (時間割コード: 910393) 個別の指導計画と個に応じた支援 Individual Educational Plans and Individual Oriented Supports	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 武蔵 博文, 山本 木ノ実	単位数 2	時間割 前期 火4	
	対象年次及び学科 1~	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 特別な教育的ニーズのある子どもに対して「個に応じた支援」を行う意義と必要性、学齢段階で必要となる支援領域・内容、学校・教室等での合理的配慮等環境整備のあり方を理解する。特別支援教育を進める上で重要なツールとなる「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義を理解し、作成方法と実施、評価・改善について習得する。「個別の指導計画」の作成事例について知り、グループワークを通じて「個別の指導計画」の作成を演習する。			
授業の目的 子どものおつまずきへの気づき、学級や学校で教育指導を行う上での配慮事項が分かり、「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義と内容、活用方法について理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、個別の教育支援計画が立案できる。</li> <li>・個々の指導の手立てを明確にして、教育指導を具体化できる。</li> <li>・実施状況を評価し、次の改善につなげることができる。</li> <li>・相談支援ファイルが活用できる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 「個別の指導計画」を実際に作成することを課題レポートとする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回: 特別な教育的配慮を必要とする子どものおつまずき・困り感 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第2回: 特別な教育的配慮を必要とする子どもへの個に応じた支援の意義、必要性とその在り方 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第3回: 支援が必要となる領域と内容、学級や学校で教育指導を行う上での配慮事項 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第4回: 「個別の指導計画」の意義と位置づけ、学習指導要領との関係 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第5回: 「個別の指導計画」の作成過程とその実施、実施後評価とその改善 (担当: 武蔵博文) 第6回: 「個別の教育支援計画」の意義と位置づけ、その活用 (担当: 武蔵博文) 第7回: 「相談支援ファイル」の意義と位置づけ、その活用 (担当: 武蔵博文) 第8回: 「個別の指導計画」の作成手順と配慮事項 (担当: 山本木ノ実) 第9回: 特別支援学級での「個別の指導計画」の活用事例と考察 (担当: 山本木ノ実) 第10回: 通級指導教室での「個別の指導計画」の活用事例と考察 (担当: 山本木ノ実) 第11回: ケース会議の実施、指導の手立ての工夫についての演習と省察 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第12回: 「個別の指導計画」の作成へ向けての演習と省察 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第13回: 「個別の指導計画」の作成のグループワーク1: ケース会議の模擬 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第14回: 「個別の指導計画」の作成のグループワーク2: 各自の結果の発表・交流 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第15回: 「個別の指導計画」の作成のグループワーク3: 各自の結果の発表・交流 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実)			
教科書・参考書等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海津亜希子「個別の指導計画作成ハンドブック」日本文化科学社</li> <li>・竹田契一・上野一彦・花熊暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 II 指導」金剛出版</li> <li>・武蔵博文・恵羅修吉監修「エッセンシャル 特別支援教育コーディネーター」大学教育出版</li> </ul>			
オフィスアワー 随時。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特別な教育的ニーズのある子への指導支援には、個別の指導計画は必須である。			

授業科目名 (時間割コード: 910394) 行動困難と社会性の指導 Instruction in behavior problems and sociability	科目区分	水準DPコード 1abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 月3	
担当教員名  宮前 義和, 武蔵 博文	対象年次及び学科 1~ 教育学研究科 高度教職実践専攻		
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 特別な教育的ニーズのある子どもの行動上のつまずきをどのように理解し、支援するのかについて理解を深める。まず、機能的アセスメントを用いた行動問題の指導と環境設定の方法について学ぶ。次に、社会的スキル訓練の意義と目的について理解するとともに、社会的スキル訓練の内容と方法について学習する。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確実なものにする。			
<b>授業の目的</b> 子どもの行動上のつまずきが悪化・拡大するメカニズムを理解し、行動療法・応用行動分析の行動的介入の視点から行動問題及び社会的スキルの指導支援の在り方について理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>機能的アセスメントの方法と適用の仕方を理解する。</li> <li>競合行動バイパスモデルによる行動支援の方法と進め方を理解する。</li> <li>行動療法・応用行動分析の諸技法と適用の仕方を理解する。</li> <li>発達障害児者の学校や家庭場面で実際に応用する方法を理解する。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 担当ごとに課題のレポートを課す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>問題分析力: 子どもの行動上のつまずき・行動問題のメカニズムの理解 (20)</li> <li>指導実施力: 行動問題の機能的アセスメントと行動面の指導 (40)</li> <li>指導実施力: 適応行動の形成と社会的スキル訓練 (40)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回: 発達障害児に見られる行動上のつまずきと社会性育成の意義 (担当教員全員) 第2回: 子どもの行動問題への機能的アセスメント (武蔵) 第3回: 機能的アセスメントの手法 (構造化面接、質問調査、直接観察、機能分析的操作) (武蔵) 第4回: 子どもの行動問題と競合行動バイパスモデル (武蔵) 第5回: 代替行動の強化と、望ましい行動の維持と定着 (武蔵) 第6回: 不適応行動を抑制・減少させる結果操作1 (低頻度行動分化強化、消去、タイムアウト) (武蔵) 第7回: 不適応行動を抑制・減少させる結果操作2 (過剰修正、環境調整、連携調整) (武蔵) 第8回: 機能的アセスメントを学校や家庭に生かすための討議と省察 (担当教員全員) 第9回: 社会的スキル訓練の意義と目的 (宮前) 第10回: 適応行動を獲得・定着させる随伴操作1 (強化、課題分析、構造化、プロンプト) (宮前) 第11回: 適応行動を獲得・定着させる随伴操作2 (モデリング、セルフマネジメント等) (宮前) 第12回: 教室場面で活用できる技法 (トークンエコノミー、行動契約、タイムアウト等) (宮前) 第13回: 社会的スキル訓練の実際 (宮前) 第14回: 学級・学校全体で取り組む社会性育成支援 (宮前) 第15回: 社会的スキル訓練を学校や家庭に生かすための討議と省察 (担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> (教) 竹田契一・上野一彦・花隈暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 II 指導」金剛出版 (教) 山上敏子「方法としての行動療法」金剛出版 (参) ケーゲル・L.K.、ラゼブニック・C.「自閉症を克服するー行動分析で子どもの人生が変わる」NHK出版 (参) アルバート・P.A.、トルートマン・A.C.「はじめての応用行動分析」二瓶社			
オフィスアワー 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 行動療法・応用行動分析に基づく実践事例に、論文等を通じて触れるようにする。			

授業科目名 (時間割コード: 910395) 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 Role of Special Support Education Coordinator and Use of Resources	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 火5	
担当教員名  武蔵 博文, 山本 木ノ実	対象年次及び学科 1~	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学校園での特別支援教育コーディネーターの役割として、特別な教育的ニーズのある子どもに気づいて学級の中で実態把握をすすめる、集団の中で個の特性への配慮した学級経営・教科指導の在り方を理解する、学級担任と協同して「個別の指導計画」を作成してその実行を支援する、校内委員会を運営して特別支援教育支援員等の校内の資源を活用する、特別支援学校のセンター的機能や教育・福祉・保健・医療等の地域のリソースとの連携をすすめる、保護者との相談をすすめて学校・学級担任との関係を調整し家庭への支援をすすめる等の方法を学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 学校園で特別支援教育を進めるために「特別支援教育コーディネーター」の役割、コーディネーションの進め方、教職員や保護者との連携、関係諸機関との連携の仕方について理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターとしての役割を説明することができる。</li> <li>特別な教育的配慮を必要とする子どもの指導支援のために、具体的な指導法、連携の進め方を提案することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 中間、最終の課題レポートによる。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 第1回: 学校園での「特別支援教育コーディネーター」の役割・位置づけ (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第2回: 特別な教育的配慮を必要とする子どもへの気づき・実態把握 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第3回: 通常の学級に在籍する子どもへの支援と学級担任の役割 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第4回: 通常学級における配慮と指導 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第5回: 教職員への情報提供・研修の方法 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第6回: 校内委員会の組織と校内支援体制づくり、学校外の関係諸機関 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第7回: 特別支援教育コーディネーターの学校内での役割についての討議と省察1 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第8回: 特別支援教育コーディネーターの学校内での役割についての討議と省察2 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第9回: 関係機関との連携、学校内外のリソースの活用1 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第10回: 関係機関との連携、学校内外のリソースの活用2 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第11回: 保護者への理解・啓発と情報提供、協同した支援の構築1 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第12回: 保護者への理解・啓発と情報提供、協同した支援の構築2 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第13回: 特別支援教育コーディネーターの役割と倫理 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第14回: 関係機関・保護者との協同についての討議と省察1 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実) 第15回: 関係機関・保護者との協同についての討議と省察2 (担当: 武蔵博文、山本木ノ実)			
<b>教科書・参考書等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>竹田契一・上野一彦・花熊暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 II 指導」金剛出版</li> <li>竹田契一・上野一彦・花隈暁監修「SENS養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 III 特別支援教育士(S.E.N.S)の役割・実習」金剛出版</li> <li>武蔵博文・恵羅修吉監修「エッセンシャル 特別支援教育コーディネーター」大学教育出版</li> </ul>			
オフィスアワー 随時。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> コーディネーターとしての視点をしっかりもつようにすることが望まれる。			

授業科目名 (時間割コード：910396) 教職実践研究Ⅰ (特別支援教育) Teaching Profession Seminar I (Special Needs Education)	科目区分	水準DPコード 2bacGL	分野コード
担当教員名 惠羅 修吉, 武藏 博文, 宮前 義和, 山本 木ノ実	単位数 2	時間割 前期 木1	
	対象年次及び学科 1～	教育学研究科	高度教職実践専攻
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習			
授業の概要 主に、実習科目における教育実践と特別支援教育コーディネーターコースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深めるとともに、各自の実践課題を明確にする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。			
授業の目的 実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目の実践と省察の記録(個別の指導計画等)を体系的に分析することができる。</li> <li>・大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を遂行できる。</li> <li>・個別指導の実践と省察を的確に振り返り、課題解決の道筋を構想することができる。</li> <li>・実践的課題の解決を目指した探究の成果を的確にまとめることができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成と実行に関する省察 (40)</li> <li>・グループワーク時の行動評価 (40)</li> <li>・最終レポート (20)</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回：全体オリエンテーション(専攻全体)(担当全教員) 第2回：個別指導の事前検討会1：事前アセスメント(担当全教員) 第3回：個別指導の事前検討会2：個別の指導計画(担当全教員) 第4回：指導実践の報告と検討1(担当全教員) 第5回：指導実践の報告と検討2(担当全教員) 第6回：指導実践の報告と検討3(担当全教員) 第7回：指導実践の報告と検討4(担当全教員) 第8回：指導実践の報告と検討5(担当全教員) 第9回：指導実践の報告と検討6(担当全教員) 第10回：指導実践の報告と検討7(担当全教員) 第11回：指導実践の報告と検討8(担当全教員) 第12回：指導実践の報告と検討9(担当全教員) 第13回：指導実践の報告と検討10(担当全教員) 第14回：指導実践の総括討議(担当全教員) 第15回：教職実践研究の交流：総合的省察(専攻全体)(担当全教員)			
教科書・参考書等 特になし。必要となる資料等は随時紹介する。			
オフィスアワー 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 実習に関する内容については守秘義務等を遵守する。			

授業科目名 教職実践研究Ⅱ（特別支援教育） Teaching Profession Seminar II (Special Needs Education)	（時間割コード：910397）	科目区分	水準DPコード 2bcaGL	分野コード
担当教員名 惠羅 修吉，武藏 博文，宮前 義和，山本 木ノ実		単位数 2	時間割 後期 木1	
		対象年次及び学科	1～ 教育学研究科	高度教職実践専攻
		関連授業科目	教職実践研究I	
		履修推奨科目		
学習時間	演習90分×15回＋自学自習			
授業の概要	主に、実習科目における教育実践と特別支援教育コーディネーターコースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深めるとともに、各自の実践課題を明確にする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、後期の実習のまとめを行う。			
授業の目的	実習科目における教育実践をチームとして総合的に省察することにより、各自の自己課題を明確化し、その課題解決に向けてチームとして共同探究を行う。大学院生の確実な成長を実現することを目的とする。			
	到達目標	学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目の実践と省察の記録（個別の指導計画等）を体系的に分析することができる。</li> <li>・大学教員と大学院生間のチームで、大学院生相互の課題解決に向けた議論を遂行できる。</li> <li>・個別指導の実践と省察を的確に振り返り、課題解決の道筋を構想することができる。</li> <li>・実践の成果を的確にまとめることができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成と実行に関する省察（40）</li> <li>・グループワーク時の行動評価（40）</li> <li>・最終レポート（20）</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回：全体オリエンテーション（専攻全体）（担当全教員） 第2回：個別指導の事前検討会1：事前アセスメント（担当全教員） 第3回：個別指導の事前検討会2：個別の指導計画（担当全教員） 第4回：指導実践の報告と検討1（担当全教員） 第5回：指導実践の報告と検討2（担当全教員） 第6回：指導実践の報告と検討3（担当全教員） 第7回：指導実践の報告と検討4（担当全教員） 第8回：指導実践の報告と検討5（担当全教員） 第9回：指導実践の報告と検討6（担当全教員） 第10回：指導実践の報告と検討7（担当全教員） 第11回：指導実践の報告と検討8（担当全教員） 第12回：指導実践の報告と検討9（担当全教員） 第13回：指導実践の報告と検討10（担当全教員） 第14回：指導実践の総括討議（担当全教員） 第15回：教職実践研究の交流：総合的省察（専攻全体）（担当全教員）			
教科書・参考書等	特になし。必要となる資料等は随時紹介する。			
オフィスアワー	随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	実習に関する内容については守秘義務等を遵守する。			

授業科目名 (時間割コード: 910398) 学校臨床実習Ⅰ (特別支援教育) School Practicum I (Special Needs Education)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 木3～5	
担当教員名  恵羅 修吉, 武蔵 博文, 宮前 義和, 山本 木ノ実	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	学校臨床実習Ⅱ (特別支援教育)	
履修推奨科目			
学習時間 実習1日5時間×16回=80時間+自学自習			
<b>授業の概要</b> 特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。			
<b>授業の目的</b> 通級指導教室、特別支援学級の実際の在り方を学び、発達障害のある子どもへの指導を計画し実行することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態を把握し、それを教育指導に生かすことができる。</li> <li>・個別の指導計画を作成する際に、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</li> <li>・子どもの実態に応じた教材教具を工夫することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 実習日誌の提出。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント力：子どもの実態把握と結果の解釈、教育指導を要する領域と内容の具体化 (40)</li> <li>・課題解決力：個別の指導計画の立案、指導教材の作成、指導計画に基づいた指導の実施 (40)</li> <li>・総合的思考力：指導記録の作成、指導経過のまとめ・評価、指導の改善 (20)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 数人1組となり、担当教員のスーパービジョンを受けながら、実際に相談、個別の指導の一部を担当する。 第1回：オリエンテーション、個別指導の計画の仕方 (担当教員全員) 第2回：個別事前面接の準備、面接資料の整理 (担当教員全員) 第3回：個別事前面接の実施、子どもの実態把握と課題の整理 (担当教員全員) 第4回：個別指導第1回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第5回：個別指導第2回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第6回：個別指導第3回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第7回：個別指導第4回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第8回：個別指導第5回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第9回：個別指導第6回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第10回：個別指導第7回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第11回：個別指導第8回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第12回：個別指導第9回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第13回：個別指導第10回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第14回：個別指導第11回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第15回：個別事後面接の準備、指導実践記録の作成 (担当教員全員) 第16回：個別事後面接の実施、指導の成果の交流 (担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> とくになし。子どもの指導に必要な教材等は随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 各回の個別指導前後。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 個人情報の扱いに注意する。 現職派遣で短期履修学生制度に該当した学生にとり、本実習は、免除科目となる。			



授業科目名 (時間割コード：910399) 学校臨床実習Ⅱ (特別支援教育) School Practicum Ⅱ (Special Needs Education)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 木3～5	
担当教員名  恵羅 修吉, 武蔵 博文, 宮前 義和, 山本 木ノ実	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	学校臨床実習Ⅰ (特別支援教育)	
履修推奨科目			
学習時間 実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。「学校臨床実習Ⅰ」を発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する基礎的な実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。			
<b>授業の目的</b> 通級指導教室、特別支援学級の実際の在り方を学び、発達障害のある子どもへの指導を計画し実行することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査等の評価から、子どもの実態を把握し、子どもの教育指導に生かすことができる。</li> <li>・面接・査定・評価から指導仮説を立て、個別の指導計画を作成することができる。</li> <li>・発達障害のある子どもの進んでいる側面を伸ばし、遅れている側面を補う教材を工夫することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 実習日誌の提出。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント力：子どもの実態把握と結果の解釈、教育指導を要する領域と内容の具体化 (40%)</li> <li>・課題解決力：個別の指導計画の立案、指導教材の作成、指導計画に基づいた指導の実施 (40%)</li> <li>・総合的思考力：指導記録の作成、指導経過のまとめ・評価、指導の改善 (20%)</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 数人1組となり、担当教員のスーパービジョンを受けながら、実際に相談、個別の指導の一部を担当する。 第1回：オリエンテーション、個別指導の計画の仕方 (担当：担当教員全員) 第2回：個別事前面接の準備、面接資料の整理 (担当：担当教員全員) 第3回：個別事前面接の実施、子どもの実態把握と課題の整理 (担当：担当教員全員) 第4回：個別指導第1回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第5回：個別指導第2回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第6回：個別指導第3回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第7回：個別指導第4回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第8回：個別指導第5回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第9回：個別指導第6回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第10回：個別指導第7回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第11回：個別指導第8回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第12回：個別指導第9回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第13回：個別指導第10回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第14回：個別指導第11回の準備・実施・実施後検討 (担当：担当教員全員) 第15回：個別事後面接の準備、指導実践記録の作成 (担当：担当教員全員) 第16回：個別事後面接の実施、指導の成果の交流 (担当：担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> とくになし。子どもの指導に必要な教材等は随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 各回の個別指導前後。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 個人情報の扱いに注意する。 現職派遣で短期履修学生制度に該当した学生にとり、本実習は、免除科目となる。			

授業科目名 (時間割コード：910400) 探究実習 (特別支援教育) School Inquiring Practicum (Special Needs Education)	科目区分	水準DPコード 2abcGL	分野コード
担当教員名 武蔵 博文, 惠羅 修吉, 宮前 義和, 山本 木ノ実	単位数 2	時間割 前期 集中	
学習時間 実習1日5時間×16回=80時間+自学自習	対象年次及び学科 1～ 教育学研究科	高度教職実践専攻	
授業の概要 前期を通して、相手先機関に合わせ随時実施する。附属特別支援学校で、知的障害児に対する生徒指導、授業の様子を参観して、支援環境の改善、支援の手立ての工夫、指導者の指導や援助の方法について学ぶ。発達障害外来のある医療機関、相談支援にあたる支援センター等での診察や相談の様子を知り、教育機関とは異なる立場の様子を知り、協同連携の在り方、ネットワークの築き方等の実践力の向上を図る。	関連授業科目 教職実践研究I		
授業の目的 特別支援学校の教育現場、医療機関や療育機関の現場を実際に体験し、異なる機関での指導支援の実際を分かり、協同連携の在り方、支援ネットワークの築き方等の実践力を身につけることを目的とする。	履修推奨科目		
到達目標		学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)	
・特別支援学校での教育の実際を知り、それを自らの教育指導に生かすことができる。 ・医療機関や療育機関での診察や相談の実際を知り、それを学校外の機関との協同連携に生かすことができる。			
成績評価の方法と基準 実習記録と実習レポートおよび口頭試問により総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 実習先機関の予定に合わせて、実習の一部は不定期となる。実習先機関の状況や求めに応じて、補助役として積極的に参加すること。 第1回：オリエンテーション、医療機関・療育機関での診察・相談、特別支援学校での教育、倫理および個人情報守秘義務、実習先の紹介 (担当：担当教員全員) 第2回：特別支援学校での授業参観・体験 (担当：担当教員全員) 第3回：特別支援学校での授業参観・体験 (担当：担当教員全員) 第4回：特別支援学校での授業参観・体験 (担当：担当教員全員) 第5回：特別支援学校での授業体験・参加 (担当：担当教員全員) 第6回：特別支援学校での授業体験・参加 (担当：担当教員全員) 第7回：特別支援学校での授業体験・参加 (担当：担当教員全員) 第8回：通級指導教室の見学参観 (担当：担当教員全員) 第9回：医療機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第10回：医療機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第11回：医療機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第12回：療育機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第13回：療育機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第14回：療育機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第15回：療育機関での陪席 (担当：担当教員全員) 第16回：実習体験の発表と交流 (担当：担当教員全員)			
教科書・参考書等 特になし。必要となる資料等は随時紹介する。			
オフィスアワー 随時。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他機関を利用した実習になるので、守秘義務等を遵守する。			

授業科目名 (時間割コード: 910401) 特別支援教育指導実習 I Special Needs Education Practicum I	科目区分	水準DPコード 2bcaGL	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 木3~5	
担当教員名  惠羅 修吉, 武蔵 博文, 宮前 義和, 山本 木ノ実, 中島栄美子	対象年次及び学科	1~ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	教職実践研究I	
学習時間	実習1日5時間×16回=80時間+自学自習		
<b>授業の概要</b> 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、児童生徒の特性に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。			
<b>授業の目的</b> 通級指導教室、特別支援学級の実際の在り方を学び、発達障害のある子どもへの個別指導を計画し実行することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントより子どもの特性を把握し、それを個別指導に活用することができる。</li> <li>・個別の指導計画を作成する際に、子どもの認知特性と状態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</li> <li>・子どもの特性に応じた教材教具を工夫することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> アセスメント力：子どもの特性把握と結果の解釈、個別の指導を要する領域と内容の具体化 (40) 課題解決力：個別の指導計画の立案、指導教材の作成、指導計画に基づいた指導の実施 (40) 総合的思考力：指導記録の作成、指導経過のまとめ・評価、指導の改善 (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 2人1組となり、担当教員のスーパービジョンを受けながら、実際に相談、個別の指導の一部を担当する。 第1回：オリエンテーション、個別指導の計画の仕方 (担当教員全員) 第2回：個別事前面接の準備、面接資料の整理 (担当教員全員) 第3回：個別事前面接の実施、子どもの実態把握と課題の整理 (担当教員全員) 第4回：個別指導第1回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第5回：個別指導第2回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第6回：個別指導第3回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第7回：個別指導第4回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第8回：個別指導第5回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第9回：個別指導第6回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第10回：個別指導第7回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第11回：個別指導第8回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第12回：個別指導第9回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第13回：個別指導第10回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第14回：個別事後面接の準備、指導実践記録のまとめの作成 (担当教員全員) 第15回：個別事後面接の実施、課題の整理と省察 (担当教員全員) 第16回：実習の成果発表と相互交流 (担当教員全員)			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。子どもの指導に必要な教材等は随時紹介する。			
オフィスアワー 随時。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 個人情報の扱いに注意する。			

授業科目名 (時間割コード：910402) 特別支援教育指導実習Ⅱ Special Needs Education Practicum II	科目区分	水準DPコード 2bcaGL	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 木3～5	
担当教員名  惠羅 修吉, 武藏 博文, 宮前 義和, 山本 木ノ実, 中島栄美子	対象年次及び学科	1～ 教育学研究科 高度教職実践専攻	
	関連授業科目	教職実践研究Ⅱ	
	履修推奨科目	特別支援教育指導実習Ⅰ	
学習時間 実習1日5時間×16回＝80時間＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 「特別支援教育指導実習Ⅰ」を発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある児童生徒に対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、児童生徒の特性に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。			
<b>授業の目的</b> 通級指導教室、特別支援学級の実際の在り方を学び、発達障害のある子どもへの個別指導を計画し実行することを目的とする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントより子どもの特性を把握し、それを個別指導に活用することができる。</li> <li>・個別の指導計画を作成する際に、子どもの認知特性と状態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</li> <li>・子どもの特性に応じた教材教具を工夫することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の指導で指導記録を提出する。 アセスメント力：子どもの特性把握と結果の解釈、個別の指導を要する領域と内容の具体化 (40) 課題解決力：個別の指導計画の立案、指導教材の作成、指導計画に基づいた指導の実施 (40) ・総合的思考力：指導記録の作成、指導経過のまとめ・評価、指導の改善 (20)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 特別支援教室「すばる」を場とした実習においては、1対1の個別指導を行う。担当教員のスーパービジョンを受けながら、実際に相談、個別指導を担当する。			
第1回：オリエンテーション、個別指導の計画の仕方 (担当教員全員) 第2回：個別事前面接の準備、面接資料の整理 (担当教員全員) 第3回：個別事前面接の実施、子どもの実態把握と課題の整理 (担当教員全員) 第4回：個別指導第1回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第5回：個別指導第2回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第6回：個別指導第3回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第7回：個別指導第4回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第8回：個別指導第5回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第9回：個別指導第6回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第10回：個別指導第7回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第11回：個別指導第8回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第12回：個別指導第9回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第13回：個別指導第10回の準備・実施・実施後検討 (担当教員全員) 第14回：個別事後面接の準備、指導実践記録のまとめの作成 (担当教員全員) 第15回：個別事後面接の実施、課題の整理と省察 (担当教員全員) 第16回：実習の成果発表と相互交流 (担当教員全員)			
置籍校や連携協力校を実習の場とする場合は、学校側とのスケジュール調整をした上で、上記の計画に見合う実習を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。子どもの指導に必要な教材等は随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 指導教員と調整する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 個人情報の扱いに注意する。			